

科目名	生物学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	細胞の基礎単位である細胞の構造と細胞小器官などの機能、細胞増殖と分化の仕組みについて理解を深める。遺伝情報の発現の仕組み、動物の発生、形態形成の仕組みについて、免疫・自律神経・内分泌による個体を維持する仕組みについて、さらに環境情報を取り入れ反応する仕組み、進化の仕組みや生物多様性などに関して理解が深められるようパワーポイントや資料を用い進める。						
一般目標	1. 生物・生命現象の一般原理を理解する。 2. 遺伝情報の伝達と発現機構、恒常性の維持の仕組みを理解する。 3. 生物の生活と密接に関係する環境とのかかわりについて理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 生物学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
医療系看護分野の基礎知識となる、生物学分野の基礎知識(細胞、遺伝発現とその調節、個体の統一的な反応、生態系、生物多様性等)への理解を深める。				
技術(精神運動領域)				
生命活動の仕組みを理解することにより、しっかりとした生命観を持てるようになる。				
態度(情意領域)				
近年「生命科学」と言われるように、生物学分野の知識はヒトの生命現象を理解するうえで必要な内容が含まれているため、真剣に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	方法	備考
1	I. 生物学を学ぶにあたって	1. 生命観の変遷、看護の基礎科学としての生物学	講義	
2	II. 生命体のつくりとはたらき	1. 生命現象の捉え方、細胞とその構造	講義	
3		2. 細胞の化学成分、細胞膜の輸送		
4	III. 生体維持のエネルギー	1. 生体内の化学反応、酵素、ATPの生成	講義	
5	IV. 細胞の増殖と身体の成り立ち	1. 細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、細胞の老化	講義	
6	V. 遺伝情報の伝達とその発現	1. 遺伝の法則と染色体、DNAの複製	講義	
7		2. 遺伝情報の伝達、タンパク質の合成、ゲノム解析		
8		3. 変異、ヒトの遺伝、遺伝子組み換えの応用		
9	VI. 生殖と発生	1. 動物の受精と発生、形態形成と遺伝子発現	講義	
10	VII. 個体の調節	1. ホメオスタシス、各器官系の働き	講義	
11		2. 自律神経、内分泌、体内調節系の相互作用		
12	VIII. 刺激の受容と行動	1. 神経、受容器、神経系の系統的発達	講義	
13		2. 筋収縮の神経制御、行動、学習、記憶		
14	IX. 生命の起源と進化	1. 生命の起源、進化の仕組み、ヒトの起源と進化	講義	
15	X. 生物と環境のかかわり	1. 個体間関係、生態系、環境問題、生物多様性	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	渡辺 雅夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	文化人類学			単位数	1単位	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人類学は人を総合的に理解しようとする学問分野であり、その一分野である文化人類学は社会文化的存在としての人間に焦点をあてる。本授業では文化人類学の視点と方法を理解した上で、その視点と方法を用いて病むこととそのケアに関わるさまざまなものごとやできごとを読み解いていく。						
一般目標	文化人類学の視点と方法を用いてさまざまな社会現象を理解できるようになる。とりわけ病むこととそのケア、医療に関わる社会現象を、文化人類学的視点と方法を用いて解釈できるようになる。						
テキスト 参考書等	参考書:江口重幸・斎藤清二・野村直樹編『ナラティブと医療』金剛出版, 2006 波平恵美子編『文化人類学[カレッジ版] 第3版』医学書院, 2012						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
文化人類学(医療人類学)の基本的な視点・方法・理論を概説できる。病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。少子高齢化がどのように保健・医療・福祉のあり方に変化をもたらすか説明できる。				
技術(精神運動領域)				
エスノグラフィ等質的研究の手法を理解し活用できる。 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。				
態度(情意領域)				
他者・異文化に敬意を払える。自身が所属する文化(医療専門職文化を含む)を相対化することができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 文化人類学とは	1. 授業の進め方、文化人類学の基本的な視点と方法の解説	講義	
2	II. 文化と医療	1. 国際保健における文化摩擦	講義	
3		2. 文化摩擦としての輸血拒否	講義	
4	III. グループ・ワーク	1. 女子割礼のケース	SGW	
5	IV. 親子	1. 親子の定義。生殖補助医療がもたらす親子関係の混乱	講義	
6	V. どこから人と見なすか	1. 何をもって人の誕生とするかをめぐる文化	講義	
7	VI. ライフステージ	1. 人の一生と通過儀礼	講義	
8	VII. 死生観	1. チベットの死生観	講義	
9	VIII. 御遺体は最初の患者である	1. 医療専門職のものの見方の特殊性	講義	
10	IX. サファリングとケアリング	1. シャーマニズムと医療はなぜ矛盾なく併用しうるか	講義	
11	X. 病むことの語り	1. ナラティブ(語り)に着目して、生活者にとっての病むことを理解する	講義	
12	XI. 医療専門職と病者の関係	1. 異文化間コミュニケーションとしての医療専門職・患者間関係	講義	
13	XII. 少子高齢化する日本社会	1. 高齢化が保健・医療のあり方をどのように変えるか	講義	
14	XIII. グループワーク 総括	1. 暮らしの現場のケアについて。嚥下障害のケース検討	SGW	
15		2. 嚥下障害のケースについてのプレゼント解説。総括と振り返り		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○		80	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)		○	○	15	
担当教員	星野 晋		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	情報科学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護過程において高度な情報処理能力が要求される。本講ではそれに対応するための情報科学の基礎および看護と情報科学の関連について学ぶ。また看護とコンピュータの関わりと利用方法について学び、コンピュータの基本的技術を身につける。						
一般目標	1. 情報技術(Excel, Word)の基本を身につける。 2. 医療と情報システムの関連について学ぶ。 3. 看護と情報科学の基礎について学ぶ。						
テキスト 参考書等	適時資料を配付						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
医療と情報システムの関連について説明できるようになる。看護と情報科学の基礎について説明できるようになる。				
技術(精神運動領域)				
Wordを用いて一般的な文書作成が出来るようになる。Excelを用いて初歩的な統計解析が出来るようになる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. ガイダンス, 情報とは	1. 情報科学についての説明, 情報の定義と特徴について講義	講義	一部リモート講義になります
2	II. 保健医療分野における情報	1. 医療の質と情報, エビデンスに基づく保健医療	講義	
3	III. 看護と情報技術	1. 看護における情報, 情報化社会と看護	講義	
4	IV. 医療情報システム	1. 情報の記録, 病院情報システム, 情報の共有	講義	
5	V. 情報倫理と患者の情報	1. 情報倫理, 医療倫理, 患者の権利と情報	講義	
6	VI. コンピュータの基本操作	1. ファイル管理, マウス操作, 文字入力	演習	
7	VII. Wordの基本操作	1. 新規ファイルの作成・保存, 文字の入力, メニュー	演習	
8	VIII. Wordを用いた文書作成	1. ビジネス文書の作成	演習	
9	IX. レポート, 論文の作成方法	1. レポート, 論文の構成, 作成方法	演習	
10	X. Excelの基本操作	1. データ入力の基本, 表作成	演習	
11	XI. Excelを用いた図表の作成	1. 表作成, グラフ作成	演習	
12	XII. Excelを用いた基礎統計	1. 基礎的なエクセル関数を用いての統計処理	演習	
13	XIII. 模擬試験	1. Word, Excelの基本操作についての試験	演習	
14	XIV. 情報セキュリティ	1. 情報倫理についての知識	講義	
15	XV. 著作権侵害	1. 著作権とその侵害	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○		40	
担当教員	酒井 徹也		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	人間関係論			単位数	2	時間数	45
対象学生	1年	開設期	前期・後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護実践において必要となる人間関係のダイナミズムを理解する。また、目的に応じた役割関係を展開する人間関係形成能力とコミュニケーション能力を養う。人見知りを克服する。人前での話（パブリックスピーキング）の苦手意識を克服する。 人間を人との関係で生き成長する存在ととらえ、人間関係を円滑に保つ必要とその方法について理解する。演習を通して体験することで、自分と他人の違いを知り、円滑なコミュニケーションに必要な「多様性」を受け入れることに繋がる。						
一般目標	1. 社会の一員である人間の存在と社会的相互作用を引き起こす人間関係を理解する。 2. コミュニケーションの基本概念及び基本構造を学び、基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 3. 看護師求められる人間関係調整力について理解する。 4. 送り手と受け手の対人的コミュニケーションにおける相互作用について多角的に理解できる。 5. 人間関係の向上に役立つスキルについて体験し理解できる 6. 相手を思いやる感性やコミュニケーション能力を高めることができる						
テキスト 参考書等	担当教員資料（林伸一ほか『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』図書文化社） 『人間関係論』医学書院等　＊授業の内容に合わせて資料を配布する。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
ペアワーク、グループワーク、構成的グループ・エンカウンター、自己肯定感について体験的に理解することができる。 授業を通して、コミュニケーションの重要性や自分の特徴(強み・弱み)、多様性について説明できる。					
技術(精神運動領域)					
自己開示、他者理解、相互理解のためのコミュニケーション技法を身につけることができる。チーム支援の協力体制がとれる。 授業を通して、コミュニケーションの重要性や自分の特徴(強み・弱み)、多様性について説明できる。					
態度(情意領域)					
男女差、年齢差にとらわれることなく積極的にコミュニケーションをはかることができる。人見知りを克服できる。 事実と感情を受けとめ、自分と他人を大切にしながらコミュニケーションを取ることができる。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	I. 人間関係基礎1	1. 自己紹介、ペアワーク、ネームゲーム、病気自慢、名前の由来	演習・解説	林	
2	II. 人間関係基礎2	1. 先週のふりかえり、シェアリング、わりばしウォーク、	演習・解説		
3	III. 人間関係基礎3	1. ブラインド・ウォーク(目隠し歩き)、トラスト・ウォーク(信頼の歩行)	演習・解説		
4	IV. 人間関係基礎4	1. 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーション、 気づき(アウェアネス)	演習・解説		
5	V. コミュニケーション技法1	1. カラーワーク、お次をどうぞ、共同絵画、ほめる・ほめられる	演習・解説		
6	VI. コミュニケーション技法2	1. 対話のある人間関係づくり1、ヒューマンライブラリー・紙芝居1	演習・解説		
7	VII. コミュニケーション技法3	1. 対話のある人間関係づくり2、人間の図書館、紙芝居2	演習・解説		
8	VIII. コミュニケーション技法4	1. 対話のある人間関係づくり3、生きている図書館、紙芝居3	演習・解説		
9	IX. コミュニケーション技法5	1. SGEのショートエクササイズ、詩の朗読、人権標語づくり	演習・解説		
10	X. 人間関係スキル1	1. 内観法1(いつ、誰に何をしてもらいましたか)、三面鏡(ジョハリの窓)	演習・解説		
11	XI. 人間関係スキル2	1. 内観法2(いつ、誰に何をしてあげましたか)、ビブリオバトル	演習・解説		
12	XII. 人間関係スキル3	1. 内観法3(いつ、誰にどんな迷惑をかけましたか)、インフォーマーシオンギャップ	演習・解説		
13	XIII. 人間関係スキル4	1. 音読、朗読、群読、輪読、朗読劇(ドラマ・メソッド) 未完の行為の完成	演習・解説		
14	XIV. 人間関係スキル5	課題レポートのテーマ発表と書き方の留意点の説明	演習・解説		
15	XV. 人間関係向上へのスキル6	課題レポートを制限時間内に決められた書式で書く	課題	林AB合同	
16	I. コミュニケーションとは	コミュニケーションの基本と種類、	講義・演習		

17	Ⅱ. コーチングの概要	1. コーチングの定義 2. コーチングと他のアプローチ技法との違い 3. コーチングの歴史、	講義・演習	山下
18	Ⅲ. 傾聴	「聴く」の具体的な方法: 相づち、うなづき、リフレイン、ペーシング	講義・演習	
19	Ⅳ. コミュニケーション タイプ分け ①	コミュニケーションタイプについて、自分のタイプを知る、相手のタイプを知る	講義・演習	
20	Ⅴ. コミュニケーション タイプ分け ②	「タイプ分け」をコミュニケーションに活かす、活用の留意点、活用するために知りたいことを聞いてみる・考える	講義・演習	
21	Ⅵ. 承認(認める)	3つの認める、具体的な方法、「ほめる」との違い、承認ワーク、	講義・演習	
22	Ⅶ. 質問、フィードバック	クローズドクエスチョン・オープンクエスチョン、3つのメッセージ、体験ワーク	講義・演習	
23	Ⅷ. アサーティブ コミュニケーション	アサーティブコミュニケーションとは、自己表現のタイプ、状況から考える	講義・演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		20	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○		15	
課題レポート	○			35	
授業態度		○		5	
演習(GW・技術等)			○	25	
担当教員	林 伸一 山下 清可		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	社会学			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会学の基礎概念(社会的行為、社会関係、集団、組織、構造、制度)と社会の現象に対する社会的視点等について講義をする。社会学は常に変容する現代社会情勢に目を向け、よりよい社会を創造しようとする「社会改革」であることを明らかにする。さらに人権問題(ジェンダー、LGBT)、ワークライフバランス(働き方改革)、格差、ストレス、社会制度等の現在の諸問題を分析説明する。そしてこれからの社会学視点から健康、病気、、医療を対象とした分野に焦点を合わせ保健医療を考察する。						
一般目標	1. 社会学の視点・観点から日本の現状を分析考察する。 2. 保健医療社会学の歴史と変遷から、利用者側と提供者側の現象と両者の関係性をとらえ、現代的問題と課題を考察する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 社会学 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
社会を構成するすべての個人は平等で対等であること、人権が守られていることを基に、看護師の専門職としての果たす役割について理解する。 より良い医療を可能にするために求められるものについて考える。				
回数	授業項目	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ. 社会学総論	1. 社会学の誕生、現代の社会学、憲法、日本の情勢	講義	
2		2. 社会学の基礎概念(社会的行為、相互行為、集団、組織他)	講義	
3		3. 社会学的視点とモデル	講義	
4		4. 保健医療と社会学(社会関係資本、公衆衛生他)	講義	
5	Ⅱ. 社会学各論	1. 健康・病気・ストレス、健康・病気の社会格差	講義	
6		2. 「働き方」「働かせ方」と健康・病気、ワークライフバランス	講義 映像視聴	
7		3. 健康・病気行動と病気経験	講義	
8		4. 患者－医療者関係とコミュニケーション、保健医療の専門職	講義	
9		5. 性、ジェンダー、家族と保健医療	講義	
10		6. ジェンダー	映像視聴	
11		7. 男女共同参画	映像視聴	
12		8. 地域医療と保健医療	講義	
13		9. 保健医療制度	講義	
14		10. 保健医療の現代的变化の位相、ケアと医療	講義	
15		11. まとめ、LGBT	講義 映像視聴	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	瀬崎譲廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	教育原理			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	本科目は「教育」について考える授業です。教育に関する知識として有名な教育学者の考えや歴史、現実の事例や最前線で活躍されているゲストの先生、ともに学ぶ仲間との対話から学び、それらを活用しながら「教育とはなにか」「どのような教育が理想か」といった問いに、皆さんの視点からより良い教育を主体的・単局的に考察します。						
一般目標	①自分が当たり前のものとして抱えている教育のイメージを再考し、教育について多角的に考えることができるようになる。②自らの教育観を確立するための基礎的知識を身につけ、自らの教育観を説明することができる。③理論と実践を結ぶ視点を育むことができる。						
テキスト 参考書等	勝野正章、庄井良信「問いからはじめる教育学」 有斐閣ストゥディアプリント(資料)を配布						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
教育および人間発達に関する理論について理解する。				
態度(情意領域)				
よりよい社会の形成に向けて、どのように課題を解決すべきかを考えることができる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. オリエンテーション	1. 講義の概要と進め方、評価方法の説明、教育の原風景	講義 GW	
2	II. 現代の教育思想①	1. 社会変動と教育、生涯学習の歴史と方法	講義 GW	
3	現代の教育思想②	1. 人間の発達課題と教育、歴史から見る“子供”	講義 GW	
4	現代の教育思想③	1. 学校の知と学校文化	講義 GW	
5	現代の教育思想④	1. 事例検討:教育の最前線、“いま”の教育現場からなにかまなべないだろうか	講義 GW	
6	現代の教育思想⑤	1. なぜ公教育が必要なのか、そもそも「学校」とは	講義 GW	
7	III. 公教育の概念と制度①	1. 教育の思想から学ぶ教育理論と実践(古代から近代)	講義 GW	
8	公教育の概念と制度②	1. 教育の思想から学ぶ教育理論と実践(近代から現代)	講義 GW	
9	公教育の概念と制度③	1. 事例検討:いのちを学ぶ教育、ケアと教育の共通点はなんだろうか	講義 GW	
10	公教育の概念と制度④	1. 評価から見た教育の原理	講義 GW	
11	IV. 教育の本質①	1. 事例検討:子どもたちを取り巻く課題、解決する方法はあるだろうか	講義 GW	
12	教育の本質②	1. 教育と学校における諸課題	講義 GW	
13	教育の本質③	1. よい教師、良い生徒・学生とはどのような存在か	講義 GW	
14	教育の本質④	1. これまでの授業を振り返り”問”を考える	講義 GW	
15	V. まとめ	1. より良い教育とは	講義 GW	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	20	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	評価なし	
担当教員	山下 貴弘		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	文学			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	「人の生命に直接かかわる看護師という職に携わる者は、どのような感性や理念、倫理観を持てばいいのであろうか」という問いを基調に、文学を通して、生と死、人間の生き方、人の心などについて深く考察することによって、自らの在り方を問い直し、プロの看護師としての基礎的な資質能力を培う。						
一般目標	1. 「看護職とは何か」という原点の問いに立ち、文学や医療分野の先達の評論を通して、プロの看護に求められる資質について考察し、目指す看護師増を自ら創造する。						
テキスト 参考書等	テキスト、資料プリント、授業記録用紙は、毎時の配布物						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
文学や評論に描かれた人間の心、人としての生き方などを看護師の視点から読むことによって、医療者としての自らの在り方について自分の言葉でまとめることができる。				
技術(精神運動領域)				
患者をよく見る力「観察力」を高めるために、メモを取ること、書くこと、ファイルすることなどの記録活動を行うことができる。				
態度(情意領域)				
文学を通して看護観や看護師観について考察し、自らが目指す看護師像を自分の言葉で述べるができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. オリエンテーション	1. 文学の授業で何を学ぶか 日野原重明「看護覚書」	講義	
2	II. 「看」に込められた心1	1. 医療人にとって文学の学びとは何か 森鷗外「高瀬舟」「夜と霧」 病跡学の視点からの夏目漱石	講義	
3	III. 「看」に込められた心2	1. プロの完成とは何か 紙屋克子、宮子あずさ	講義	
4	IV. 見えないものを見る1	1. 星野富弘 ーもう一つの悲しみからー	講義	
5	V. 見えないものを見る2	1. ふるさとの詩人 ー金子みすゞのころを読むー	講義	
6	VI. 看護師を生きる1	1. 「共感」とは何か 小澤竹俊、レーチェルカーソン	講義	
7	VII. 看護師を生きる2	1. 「ナイチンゲール誓詞を生きる」「いのちのバトン」「二つの覚悟」	講義	
8	VIII. まとめ・試験	1. まとめ・試験	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○		30	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	鈴木 隆子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	英会話			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護・医療に必要な医療英語の習得 臨床で必要な実用英会話のロールプレイ いりょの中で日常的に使う英会話表現になれコミュニケーションを身につける。						
一般目標	1. 医療用語を知り身につける。 2. 患者への問診、指示が英語でできるよう基礎英会話の習得。						
テキスト 参考書等	クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護・医療に必要な医療英語を身につける。 患者への問診等、情報収集に必要な基礎的な英会話能力を養う。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. Unit1	1. インタビュー、エクササイズ	講義	
2	II. Unit2	1. 患者に質問し、情報を聞き出す	講義	
3	III. Unit3	1. 患者に質問し、情報を聞き出す	講義	
4	IV. Unit4 Unit5	1. ○○科の言い方、初診でのやり取り、道案内	講義	
5	V. Unit6	1. 症状と兆候の表現、症状の聞き方の表現	講義	
6	VI. Unit7	1. 人体各部の名称	講義	
7		2. 症状の部位・具合を聞く		
8	VII. Unit8	1. 主な病気の名称、時の表現	講義	
9		2. 病歴の聞き方の習得、ロールプレイ	講義	
10	IX. Unit9	1. 薬の種類、服用に関する表現	講義	
11	X. Unit10	1. 検査の言い方、予約の取り方に関する表現	講義	
12	XII. XI. Unit11	1. 手術に関する表現、ロールプレイ	講義	
13		2. 話し手の意思を述べるときの表現	講義	
14	XIII. Unit1～11復習	1. 入院患者に良くする質問、ロールプレイ	講義	
15	XIV. Final test	1. 試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	Thomas Taylor		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	音楽			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	健やかな精神と身体の形成と、自己の情緒の安定を保つ力と感性を学ぶ。また看護と音楽の関連を学ぶ。						
一般目標	1. 音楽が人に与える影響について理解する。 2. 歌う、聴く、音楽コミュニケーションを通して、自己の感性を磨く。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

技術(精神運動領域)				
音楽が人に与える影響について説明できる。 作品鑑賞や合唱への参加を通して、自己の感性を持つ。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 人と音楽	1. 音楽とは	講義	
		2. リズム、拍子		
2	Ⅱ. 音楽の与える影響	1. 姿勢、呼吸法、発声法	講義	
3		2. 表現力	講義	
4	Ⅲ. 看護と音楽の関連	1. 音楽療法	講義	
5			講義	
6	Ⅳ. 音楽のジャンル	1. クラシック系	講義	
		2. ポピュラー系		
7	Ⅴ. 発表	1. グループで練習した曲を発表	講義	
8			講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)		○		30	
担当教員	モチエオ久美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	体育			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	スポーツや体育はなぜ多くの国々において推進されているのだろうか。スポーツや体育の目的は、単に健康のためや気晴らしのために行われてきたわけではない。本授業はスポーツや健康に関する様々な考え方を紹介するとともに、自ら実践することによってスポーツについて多角的に考え、実践できるようになる。						
一般目標	1. 体育の社会的意味を理解する。 2. スポーツや健康に対する様々な考え方を理解する。 3. スポーツの実践を通してスポーツを多角的に実施できる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
体育・スポーツの社会的意味を理解する。				
技術(精神運動領域)				
スポーツや健康に対する様々な考え方を学ぶ。				
技術(精神運動領域)				
スポーツの実践を通してスポーツを多角的にとらえることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 体育の社会的意味	1. オリエンテーション	講義	
2	II. 体育の社会的意味 スポーツの起源	1. 学校体育とは何か、健康はどうして社会課題なのか	講義	
3	III. スポーツの効果 障害者スポーツ	1. レクリエーション、運動について考える	講義 演習	
4	IV. レクリエーション、運動	1. レクリエーション、運動について考える、レクリエーション発表	講義 演習	
5	V. スポーツ実技	1. バレーボール	実技	
6				
7				
8	VI. スポーツ実技を作る	1. レクリエーション・スポーツ	演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○		50	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)			○	50	
担当教員	水崎 佑毅		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	心理学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、看護実践の場においてのよりよい人間関係を模索する。						
一般目標	1. 人間の心理や行動の基礎にある原理を理解する。 2. 人間の発達段階の特徴から、発達の心理理解する。 3. 看護実践の場で必要なカウンセリング技術を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 心理学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
人間の心理や行動の基礎にある原理を説明できる。 人間の発達段階の特徴から、発達の心理を説明できる。 看護実践の場で必要なカウンセリング技術を説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 心理学とは	1. 心理学に関するイメージとその先入観の原因	講義	
2	II. 心理学とは 感覚	1. 感覚の共通性質	講義	
3	III. 知覚の心理	1. 知覚の一般特性 ものの見え方	講義	
4		2. 錯覚現象	講義	
5		3. 運動視、恒常性	講義	
6		4. 錯覚の測定	演習	
7	IV. 知覚の種類	1. 空間知覚、運動知覚、時間知覚	講義	
8		2. 人の認知	演習	
9	V. 記憶の諸相	1. 記憶に関する系列位置曲線	演習	
10	VI. 忘却の理論	1. 忘却の理論 記憶の工夫	講義	
11	VII. 学習の心理	1. 学習理論	講義	
12		2. 動機づけ	講義	
13	VIII. 集団の心理	1. 集団力学	講義	
14		2. リーダーシップ論	講義	
15	試験	試験		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	福田 廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	行動科学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間の行動の成立と変化のメカニズムについて理解し、看護場面においてよりよい人間関係を成立、発展させるための基礎的能力を養う。						
一般目標	1. 人間の行動と健康の概念を理解する。 2. 人間の行動の成立と変化のメカニズムが理解する。 3. 行動理論・コーピング・自己効力感などの人間関係成立の思考と行動を理解する。						
テキスト 参考書等	健康行動理論の基礎（医歯薬出版）						
	健康行動理論の実践編（医歯薬出版）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
人間の行動と健康の概念が説明できる。 人間の行動の成立と変化のメカニズムが説明できる。 行動理論・コーピング・自己効力感などの人間関係成立の思考と行動が説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 行動科学の歴史と看護のかかわり	1. 行動科学とは	講義	
2		2. 行動科学と看護理論	講義	
3	II. 行動科学の基本概念	1. 生物学的・心理学的・社会学的存在としての人間	講義	
4		2. ライフサイクルと発達課題 (1)エリクソンの発達課題	講義	
5		3. 危機と対処 (1)適応と不適応 (2)危機モデル (3)防衛機制	講義	
6		1. 客観的情報による対象理解	講義 GW	
7		2. 対象の内的理解:面接法 (1)共感、沈黙の意味	講義 GW	
8	III. 対象理解の方法論	3. 対象との関係性及び関係性を通じた理解 (1)プロセスレコード、交流分析、投映法的心理テスト	講義 GW	
9		1. 行動の成立と変化のメカニズム	講義 GW	
10		2. カウンセリング (1)看護場面におけるカウンセリング	講義 GW	
11	IV. 行動成立変容、行動変容	3. 障害受容のプロセス	講義 GW	
12	V. 看護の分野における行動科学	1. 看護師の変化	講義 GW	
13		2. 患者の変化	講義 GW	
14		3. 看護師と患者の関係性における変化	講義	
15	試験	試験		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未 修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	福田 廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学 I			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人体の構造と機能分野の中で生物学的知識を学び、臓器や骨格・筋などについて、系統的に解剖学部位、構造及び機能などを講義し理解させる。						
一般目標	1. 人体の細胞・組織・機関の構造と機能がわかる。 2. 骨・関節・筋の構造と機能が理解できる。 3. 消化器、栄養の消化と吸収など、健康な状態が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
人体理解のための生物学的知識を獲得し記述できる。 骨・筋の概要が理解でき説明できる。 消化器と消化管の構造と機能を理解し、記述や説明できる。				
技術(精神運動領域)				
実際に自分の身体や他社の身体の骨・筋にふれ、動きと構造を理解する。 モデルを使い実際に触れて組み立て、消化器と消化管の解剖部位、周囲臓器との関連などがわかる。				
態度(情意領域)				
骨・筋の働きについて系統立てて現せる。 消化器と消化管を系統立てて現せる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 人体の構造と機能	1. 人体の構造と機能を学ぶために 2. 人体の素材としての細胞と組織	講義	村瀬
2	II. 解剖生理基礎知識	1. 人体について	講義	
3		2. 細胞・組織、構造と機能	講義	
4	III. 体の支持と運動	1. 骨格とは	講義	
5		2. 骨格筋・抗重力筋	講義	
6		3. 骨格と筋	講義	
7		4. 筋の収縮	講義	
8	IV. 腹部消化管	1. 栄養の消化と吸収	講義	
9		2. 消化管と消化腺	講義	
10		3. 口腔、食道の構造と機能	講義	
11		4. 胃、小腸の構造と機能	講義	
12		5. 三大栄養素の消化と吸収	講義	
13		6. 大腸の構造と機能	講義	
14		7. 肝臓、胆嚢の構造と機能	講義	
15		8. 膵臓、腹膜の構造と機能	講義	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			95	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	村瀬 ひろみ		実務経験紹介	有	

科目名	解剖生理学Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人体の構造と機能分野の中で、臓器について、系統的に解剖学部位、構造及び機能などを教授する。 呼吸器系の各器官の構造と機能を解説し、呼吸・発声のメカニズムと機能検査を教授する。 心臓および血管の構造と機能を解説し、循環器系の機能検査を教授する。 血液の組成と赤血球・白血球・血小板の機能を解説し、血液凝固の正常と異常を教授する。						
一般目標	1. 循環器・呼吸器などの解剖部位、構造及び健康な状態が理解できる。 2. 呼吸器の構造と機能を理解し、肺気量の測定検査が理解できる。 3. 循環器の構造と機能を理解し、心電図・心音検査が理解できる。 4. 血液の組成と機能を理解し、血液細胞の役割が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
呼吸器系・循環器系の構造と機能や、病態生理に関連する検査を理解し、記述や説明できる。				
技術(精神運動領域)				
モデルを使い実際に触れて組み立て、循環器・呼吸器の解剖部位、周囲臓器との関連などがわかる。講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。				
態度(情意領域)				
循環器・呼吸器を系統立てて表現できる。 予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 呼吸の構造	1. 呼吸器の構成	講義	野島
2		2. 上気道、下気道、肺、胸膜・縦隔	講義	
3	Ⅱ. 循環器の構成	1. 心臓の構造	講義	
4		2. 末梢循環系の構成	講義	
5		3. リンパ組織	講義	
6	Ⅲ. 血液の組成	1. 血液組成	講義	
7		2. 赤血球・白血球・血小板の構造と機能	講義	
8	Ⅳ. 呼吸器系の構造	1. 呼吸器の構造・外呼吸と内呼吸・気道の機能	講義	
9	Ⅴ. 呼吸器系の機能と検査	1. 呼吸のメカニズム・肺気量の測定検査・呼吸運動の調整・発声のメカニズム	講義	
10	Ⅵ. 循環器系の構造と機能	1. 循環器系の構成・心臓の構造	講義	
11	Ⅶ. 心臓の構造と機能検査	1. 心臓の拍出機能・心電図・心周期と心音	講義	
12	Ⅷ. 血液循環とリンパ液循環	1. 血液循環とリンパ液循環・血管の構造・動脈・静脈・毛細血管・門脈	講義	
13	Ⅸ. 循環器系の病態生理	1. 血流と血圧・血圧の測定法・循環器系の病態生理	講義	
14	Ⅹ. 血液の組成と機能	1. 血液の組成と機能・赤血球の機能と検査・貧血の分類と原因	講義	
15	Ⅺ. 血液細胞の種類と役割	1. 白血球・血小板の産生と構造・機能・血液凝固の正常と異常	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人体の構造と機能分野の中で、臓器について、系統的に解剖学部位、構造及び機能などを教授する。 自律神経系の構造と機能調節を解説し、交感神経と副交感神経によるバランスを教授する。 内分泌系の構造とホルモンによる内臓機能の調節を解説する。 体液の調節・血液型の仕組みを解説し、輸血関連検査と副作用を教授する。						
一般目標	1. 泌尿器・生殖器などの解剖部位、構造及び健康な状態が理解できる。 2. 自律神経系の構造と機能調節を理解する。 3. 内分泌系の構造とホルモンによる内臓機能の調節を理解する。 4. 血液型の仕組みと輸血関連検査及び副作用を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
循環器・呼吸器の構造と機能を理解し、記述や説明できる。 自律神経系・内分泌系の構造とホルモンによる調節を説明できる。 血液型の仕組みと輸血に関連する検査と副作用を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
モデルを使い実際に触れて組み立て、循環器・呼吸器の解剖部位、周囲臓器との関連などがわかる。 講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。				
態度(情意領域)				
循環器・呼吸器を系統立てて表現できる。 予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 体液の調節と尿の生成	1. 腎臓	講義	澤田
2		2. 尿の生成	講義	
3		3. 排尿	講義	
4	Ⅱ. 自立神経系による調節	1. 体性神経と自律神経・自律神経の機能・交感神経と副交感神経	講義	野島
5	Ⅲ. 内分泌系とホルモン 性腺の構造と性ホルモン	1. 内分泌とホルモン・ホルモンの構造と作用機序・視床下部ホルモン	講義	
6		2. 下垂体の構造・視床下部ホルモン・下垂体前葉・後葉ホルモン	講義	
7		3. 甲状腺の組織とホルモン・副甲状腺ホルモンの作用・甲状腺機能の異常□	講義	
8		4. 膵臓の構造と血糖値の調節・副腎の構造とホルモン・副腎皮質機能の異常	講義	
9		5. 性腺の構造と性ホルモン・視床下部によるホルモン分泌調整	講義	
10	Ⅳ. 体液の調節	1. 体液の調節・水分の出納と脱水・電解質の異常・酸塩基平衡	講義	
11	Ⅴ. 血液型と輸血	1. 血液製剤の種類と保存条件・ABO式血液型と検査・Rh式血液型と検査	講義	澤田
12	Ⅵ. 生殖・発生と老化の仕組み	1. 男性生殖器	講義	
13		2. 女性生殖器	講義	
14		3. 受精と発生	講義	
15		4. 成長と老化	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三 澤田 知夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学Ⅳ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人体の構造と機能を知るために、「情報の受容と処理」と「身体機能の防御と適応」に関する器官の構造と機能を系統的に紹介する。 人体の構造と機能分野の中で、臓器について、系統的に解剖学部位、構造及び機能などを講義し理解させる。						
一般目標	1. 脳・神経系の構造と機能に関する知識を習得する。 2. 情報受容伝達器官の構造と機能をに関する知識を習得する。 3. 皮膚・免疫・体温などの解剖部位、構造及び健康な状態が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
授業で取り上げた器官の構造と機能について説明できる。 皮膚・免疫関連器官・体温の構造と機能を理解し、記述や説明できる。				
技術(精神運動領域)				
モデルを使い実際に触れて組み立て、皮膚・免疫関連器官・体温調節の解剖部位、周囲臓器との関連などがわかる。				
態度(情意領域)				
皮膚・免疫関連器官・体温を系統立てて表現できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 神経系の構造と機能1	1. 神経細胞の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	乾
2	II. 神経系の構造と機能2	1. 中枢神経と末梢神経の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	
3	III. 脊髄と脳1	1. 脊髄の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	
4	IV. 脊髄と脳2	1. 脳の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	
5	V. 脊髄神経と脳神経	1. 脊髄神経と脳神経の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	
6	VI. 脳の高次機能	1. 脳の高次機能を簡単に説明できる。	講義	
7	VII. 運動機能と感覚機能	1. 下行伝導路と上行伝導路を簡単に説明できる。	講義	
8	VIII. 視覚と聴覚	1. 眼と耳の構造と機能を簡単に説明できる。	講義	
9	IX. 味覚と嗅覚及び疼痛	1. 味覚器と嗅覚器の構造と機能を簡単に説明できる。 2. 疼痛の分類と発生機序を簡単に説明できる。	講義	
10	X. 「情報の受容と処理」のまとめ	1. 「情報の受容と処理」に関するまとめ課題に適切な回答が提示できる。	講義	
11	XI. 外部環境からの防御	1. 皮膚の分布と構造	講義	澤田
12		2. 皮膚の機能	講義	
13		3. 生体防御機構(免疫)	講義	
14		4. 免疫の機序・免疫異常	講義	
15		5. 体温とその調節	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			95	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	乾 誠 澤田 知夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生化学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	この授業では、まず細胞の構造および細胞を構成する化学物質の構造と性質学び、それらの物質が体内でどのように変化・代謝されているかを解説する。続いて、遺伝情報がどのような分子に書かれており、どのように発現するのか、そして遺伝情報の異常がどのような結果をもたらすか、を解説する。また、疾病の代表として糖尿病を取り上げ、この疾病において、代謝がどのように変化しているか、それによりどのようなことが引き起こされるかを説明する。さらに、いくつかの生化学検査の方法と原理についても学ぶ。						
一般目標	1.人間の生体を構成する物質が何であるか理解できる。 2.物質代謝を理解できる。 3.遺伝情報と発現の方法を理解できる。 4.疾病の成り立ちを理解できる。 5.生化学検査の原理と方法を理解できる。						
テキスト 参考書等	分かりやすい生化学 (ヌーベルヒロカワ)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
タンパク質・糖質・脂質の構造を説明できる。 等代謝・脂質代謝・アミノ酸代謝について説明できる。 DNA・RNAの構造と遺伝情報に基づいたタンパク質の合成を説明できる。 糖尿病における代謝の変化を説明できる。 生化学検査(ALT、AST、CK、 γ GT等)について説明できる。				
態度(情意領域)				
授業に真面目に取り組む。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 生体の成り立ちと生体分子	1. 生化学を学ぶために必要な生物学と化学の基礎	講義	
2	II. タンパク質の構造と性質	1. アミノ酸の種類、ペプチド結合、タンパク質の構造、変性	講義	
3	III. 酵素の性質と働き	1. 酵素とは何か、命名法、酵素反応の特徴	講義	
4	IV. 糖の種類と構造	1. 単糖類と多糖類	講義	
5	V. 糖の代謝	1. 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ATP合成	講義	
6	VI. 脂質の構造	1. 脂肪酸と中性脂肪、コレステロールと胆汁酸	講義	
7	VII. 脂質の構造	1. 脂肪酸の合成と分解、ベータ酸化、ケトン体、腸肝循環	講義	
8	VIII. リポタンパク質	1. 脂質の血中での輸送、善玉と悪玉コレステロール	講義	
9	IX. 糖尿病	1. 糖尿病の成り立ち、糖化反応、アシドーシス、脂質代謝との関係	講義	
10	X. アミノ酸の代謝	1. アミノ酸の合成と分解、尿素回路、代謝異常	講義	
11	XI. DNAと遺伝情報	1. DNA・RNAの構造、染色体の構造、遺伝情報とは？	講義	
12	XII. タンパク質の合成	1. DNAからタンパク質へ	講義	
13	XIII. ホルモン	1. ホルモンとは、ホルモンの作用機構	講義	
14	XIV. ビタミン	1. ビタミンの種類と作用	講義	
15	XV. 消化・吸収	1. タンパク質・糖・脂質の消化	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	渡部 省二		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	栄養学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間にとって栄養の意義と健康な生活を営むための適正な栄養、食事の摂り方について教授する。						
一般目標	1. 栄養素の働きと代謝がわかる。 2. 発達段階における栄養の目的と摂取方法が理解できる。 3. 治療食の実際が理解できる。 4. 治療食の調理ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学(医学書院) 食品成分表2021(医歯薬出版) 糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂)、自己作成資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 食生活の急激な変化を年代別に振り返ると共に食生活の基本知識学ぶことができる。 授乳期から老齢期に至るまでの段階による栄養について詳しく学ぶことができる。				
技術(精神運動領域) 健康に関する(栄養素・栄養計算・バランスガイド・BMI、エネルギー必要量の求め方)について学ぶことができる。				
態度(情意領域) 主体的に参加することができる(治療食の調理実習) 事前準備ができる(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 栄養状態の評価判定の意義と目的	1. 栄養学を学ぶ意義、食事療法の進歩と医療制度、看護と栄養	講義	
2	II. 栄養素について	1. 栄養素の種類と働き(五大栄養素)	講義	
3		2. 栄養素の種類と働き(ビタミン・ミネラル・食物繊維)	講義	
4	III. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝	1. 食物の消化・吸収・代謝	講義	
5	IV. エネルギー代謝	1. 食品のエネルギー・体内エネルギー	講義	
6	V. 食事と食品	1. 食文化、食事摂取基準、食品と栄養素、食品成分表の使い方(計算をする)食品の調理の工程と技法	講義 演習	
7	VI. 栄養ケアマネジメント・評価	1. 栄養教育・食行動、身体計測、栄養状態の評価・判定	講義	
8	VII. ライフステージと栄養	1. 乳児期(離乳食) 2. 幼児期 3. 学童期 4. 思春期・青年期 5. 成人期 6. 高齢期における栄養	講義	
9	VIII. 臨床栄養	1. 疾患別食事療法の実際 ①	講義	
10		2. 疾患別食事療法の実際 ②	講義	
11	IX. 生活習慣病と予防について	1. 高血圧症、動脈硬化症、心疾患、脳血管障害、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風等疾病別に予防	講義	
12	X. 食の安全と表示	1. 食物アレルギー、消費期限と賞味期限、保健機能食品、バランスガイド	講義 演習	
13	XI. 疾患別食事療法の調理	1. 治療食(糖尿病食)交換表による治療食作り	実習	
14			実習	
15	XII. リフレクション	1. 理解力の欠けている個所の振り返り	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○		10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)			○	10	
担当教員	原田 綾子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病理学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人体の基本構造と病因の分類を解説し、細胞・組織の損傷と修復過程について教授する。 自然免疫と適応免疫・細胞性免疫と液性免疫について解説し、炎症反応・アレルギー・自己免疫疾患の発症機序を教授する。 先天異常・遺伝子異常や代謝障害について解説し、それらに伴う病態について教授する。 腫瘍の組織発生による分類や癌の転移と進行度について解説し、腫瘍の診断と治療法を教授する。						
一般目標	1. 人体の基本構造と病因の分類を理解し、細胞・組織の損傷と修復過程について説明できる。 2. 免疫の概念と仕組みを理解し、炎症反応・アレルギー・自己免疫疾患について説明できる。 3. 遺伝子、DNA、染色体の構造を理解し、先天異常と遺伝子疾患について説明できる。 4. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、腫瘍の組織発生による分類や癌の転移と進行度を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
病気の成因や病気の分類と成り行きが理解できる。病理診断の役割と意義を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。				
態度(情意領域)				
予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 人体の基本構造と病因の分類	1. 人体の基本構造と働きの流れ・臓器の全体像・病気の原因(病因)の分類	講義	
2	II. 細胞・組織の損傷と修復	1. 細胞の損傷と適応・肝臓の代謝機能・高脂血症・動脈硬化症・虚血性心疾患	講義	
3	III. 循環障害	1. 循環障害・充血とうっ血・血小板・凝固・線溶機構・出血と血栓	講義	
4	IV. 出血性疾患と血栓塞栓症	1. 出血性疾患・病的血栓形成の3要因・DIC・ショックの分類	講義	
5	V. 免疫の概念と仕組み 免疫システム 炎症・アレルギー・自己免疫	1. 免疫の概念と仕組み・免疫担当細胞の分化と成熟	講義	
6		2. 自然免疫と適応免疫・細胞性免疫と液性免疫・能動免疫と受動免疫	講義	
7		3. 炎症反応・アレルギーの分類・代表的な自己免疫疾患	講義	
8	VI. 臓器移植と造血幹細胞移植	1. 免疫不全症候群・臓器移植と造血幹細胞移植・ヒト白血球抗原(HLA)	講義	
9	VII. 再生医療・造血器腫瘍	1. 移植に対する免疫反応・再生医療と細胞療法・造血器腫瘍	講義	
10	VIII. 代謝障害	1. タンパク質代謝障害・糖代謝と糖尿病・ビリルビン代謝と黄疸・肝臓・胆嚢の疾患	講義	
11	IX. 老化と死	1. 細胞の老化と個体の老化・加齢に伴う諸臓器の変化・尊厳死と緩和医療	講義	
12	X. 先天異常と遺伝子疾患	1. 先天性異常・遺伝子、DNA、染色体・先天異常・遺伝性疾患の診断	講義	
13	XI. 良性腫瘍と悪性腫瘍	1. 良性腫瘍と悪性腫瘍・腫瘍の組織発生による分類・癌の転移と進行度	講義	
14	腫瘍の診断と治療	2. 腫瘍の診断と治療・造血器腫瘍総論・急性白血病・慢性白血病	講義	
15	XII. 病理診断の実際	1. 病理診断の意義・細胞診断・術中迅速診断・病理解剖	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			30	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	呼吸器、循環器、血液・造血器疾患における主な疾病の原因、病態・検査・治療について講義し理解させる。						
一般目標	1. 呼吸器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 2. 循環器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 3. 血液・造血器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2呼吸器 3循環器 4血液・造血器（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
呼吸器疾患の原因、病態、症状、治療を理解し、記述や説明できる。				
循環器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。				
血液・造血器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
呼吸器疾患の特徴や検査によく使われる触診・聴診などを理解する。				
循環器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。				
血液・造血器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。				
態度(情意領域)				
質問や発問などのやり取りで積極的に学習に取り組み参加する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 血液・造血器疾患	1. 症状と病態生理:貧血、白血球数の異常、脾腫、出血性素因	講義	大津山
		2. 検査と治療・処置:末梢血検査、骨髓穿刺、輸血、造血幹細胞移植		
2		3. 赤血球系の疾患:鉄欠乏性貧血、再生不良性、貧血 白血球系の疾患:白血病	講義	
3		4. リンパ網内系疾患:悪性リンパ腫、HIV感染とエイズ 異常タンパク血症:多発性骨髄腫	講義	
4		5. 出血性疾患	講義	
5	Ⅱ. 循環器疾患	1. 虚血性心疾患の病態、症状、検査、治療	講義	上田
		2. 安定冠動脈疾患、不安定冠動脈疾患		
6		3. 心不全の病態、症状、検査、治療	講義	
		4. 左心不全、左心不全		
7		5. 心不全の病態、症状、検査、治療	講義	
		6. 左心不全、左心不全		
8		7. 不整脈	講義	
		8. 正常洞調律、不整脈波形と性質、治療		
9		9. 血圧異常、弁疾患、心筋疾患、先天性心疾患、動・静脈系疾患、リンパ系疾患	講義	
10	Ⅲ. 呼吸器疾患	1. 症状と病態生理:自覚症状、他覚症状、呼吸音の聴取、呼吸の異常	講義	
		2. 検査と治療・処置		
11		3. 感染症:風邪症候群、インフルエンザ、肺炎、結核 間質性肺疾患:間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、塵肺	講義	
12		4. 気道疾患:気管支ぜんそく、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、肺血栓塞栓症	講義	
13		5. 呼吸調整に関する疾患:過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群	講義	
14		6. 肺腫瘍:良性腫瘍、悪性腫瘍	講義	
15		7. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患:胸膜炎、膿胸、自然気胸	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	大津山 賢一郎 上田 亨		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	消化器、腎・泌尿器、免疫・アレルギー疾患における主な疾病の原因・病態・症状・治療について理解するとともに、外科的治療の基礎について学ぶ。						
一般目標	1. 消化器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 2. 腎・泌尿器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 3. 免疫・アレルギー器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 4. 外科的治療の基礎について説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5消化器 8腎・泌尿器 11アレルギー・膠原病感染症（医学書院） 臨床外科看護総論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
消化器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。 腎・泌尿器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。 免疫・アレルギー器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。 外科的治療の基礎について説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 消化器疾患	1. 消化器疾患における特有の症状	講義	中嶋
2		2. 食道の疾患、検査、治療	講義	
		3. 食道がんの病態、検査、治療方法		
		4. 内視鏡検査、超音波、放射線療法		
3		5. 胃、十二指腸の病態や症状	講義	
		6. 胃がんの病態、検査、治療法、低侵襲治療		
4		7. 腹膜疾患の病態、症状、徴候・低侵襲治療	講義	
5		8. 肝臓、胆嚢の疾患、その病態や検査、治療	講義	
6	Ⅱ. 泌尿器疾患	1. 腎の構造と機能、排泄路の機能と構造	講義	
		2. 泌尿器疾患における特有の症状		
7		3. 腎疾患における特有の症状	講義	
8		4. 糸球体疾患における特有の症状	講義	
9	Ⅲ. 外科総論・外科各論	1. 手術侵襲における生体反応	講義	両國
10		2. 炎症、感染症、腫瘍における検査診断	講義	
		3. 外科的治療における麻酔法(全身麻酔、局所、麻酔)		
		4. 術前・術中・術後管理、呼吸管理、疼痛管理、合併症、体液・栄養管理輸血療法		
11	Ⅳ. 外科患者の病態の基礎	1. 外科的基本手技	講義	
		2. 清潔操作、創傷管理、癌性疼痛(緩和ケア)、移植		
12	Ⅴ. 免疫・アレルギー 膠原病感染症	1. アレルギー疾患の検査・治療と症状・疾患	講義	大津山
13			講義	
14		2. 自己免疫疾患の症状と検査・治療	講義	
15		3. 感染症の診断・治療と疾患	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	両國 俊樹 中嶋 恵子 大津山 賢一郎		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	脳・神経、運動器、内分泌・代謝疾患における主な疾病の原因、病態、症状、検査、治療について講義し理解させる。						
一般目標	1. 脳神経系疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 2. 運動器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 3. 内分泌・代謝疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 成人看護学6内分泌・代謝 7脳・神経 10運動器（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)
脳神経系疾患の原因、病態、症状、治療を記述や説明できる。
運動器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。
内分泌・代謝疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。
技術(精神運動領域)
脳神経系疾患の特徴や検査によく使われる触診・打診などを理解する。
運動器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。
内分泌・代謝疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。
態度(情意領域)
質問や発問などのやり取りで積極的に学習に取り組み参加する。
運動器疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。
内分泌・代謝疾患の原因、病態、症状、治療を説明できる。

回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ．脳・神経系疾患	1. 症状とその病態生理:意識障害、高次脳機能障害	講義	
2		2. 検査・診断と治療・処置		
3		3. 脳疾患:脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷 脊髄疾患:脊髄炎		
4		4.末梢神経障害:多発性ニューロパチー、単神経障害、末梢性顔面神経麻痺	講義	
5		5. 神経・筋疾患:重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー		
6		6. 脱髄・変性疾患:パーキンソン病 認知症:アルツハイマー病、脳血管性認知症	講義	
7	Ⅱ．運動器疾患	1. 運動器の構造と機能	講義	坂本
8		2. 外傷性運動器疾患:(骨折、脱臼、打撲、捻挫、神経・筋腱靱帯損傷)、発育性股関節臼蓋形成不全	講義	
9		3. 骨・関節の炎症性疾患:骨髄炎、変形性関節症、関節リウマチ、痛風	講義	
10		4. 脊椎疾患:腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症、ボリオ、急性脊髄性四肢麻痺	講義	
11	Ⅲ．内分泌・代謝疾患	1. 症状とその病態生理	講義	東
12		2. 内分泌疾患・代謝疾患における主な検査と治療		
13		3. 内分泌疾患:視床下部-下垂体前葉系疾患、下垂体後葉系疾患	講義	
14		4. 内分泌疾患:甲状腺疾患、副甲状腺疾患	講義	
15		5. 内分泌疾患:副腎疾患、膵・消化管神経内分泌産腫瘍		
		6. 代謝疾患:糖尿病、脂質異常症	講義	
		7. 代謝疾患:肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	坂本 相哲 東 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅳ			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	小児期における主な疾病の原因・病態・検査・治療について理解する。						
一般目標	1. 脳神経系疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 2. 運動器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 3. 内分泌・代謝疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 4. 造血器・悪性腫瘍疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 各臓器の解剖生理学を想起しながら臓器の解剖図が書け、その働きについて述べることができる。 検査データや症状・発達段階を分析・解釈して、事象やデータ間の構成要素や関係を判断し、疾病構造について理解する。 病態が理解でき治療との関連性がわかる。 人間を延滞的な存在として理解し、健康問題を考える。				
技術(精神運動領域) フィジカルアセスメントができる。 検査・治療時の援助技術ができる。 発達段階や家族のレディネスに応じたコミュニケーション技術を用いて、健康生活を守るための教育活動のデモンストレーションができる。				
態度(情意領域) 特定の症状や現象・状況・条件などを感知して、問題状況を発見する能力(感受性)を持てる。 感知した事柄(問題状況)に対して適切な援助実践のイメージができる。 学生自身が科学的な思考をする態度・学習の習慣を身につける。(学習することを楽しめる)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 呼吸器系の疾患	1. 気管支喘息 2. 肺炎	講義 GW	
2	II. 循環器系の障害	1. 動脈管開存症 2. ファロー四徴症	講義	
3	III. 内分泌系の障害	1. ホルモンと疾患の特徴 2. 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症	講義	
4	IV. 代謝機能の障害 V. 運動器機能の障害	1. 代謝機能の障害 1)先天性代謝異常 2)糖尿病 3)アセトン血性嘔吐症 1. 運動機能の障害 1)先天性股関節脱臼 2)先天性内反足 3)先天性筋性斜頸	講義	
5	VI. 腎・泌尿器系の障害	1. 腎・泌尿器系の障害 1)ネフローゼ症候群	講義 GW	
6	VII. 造血器・悪性腫瘍の疾患	1. 造血器疾患 1)鉄欠乏性貧血 2)再生不良性貧血 3)DIC 2. 悪性腫瘍 1)白血病	講義 GW	
		1. 消化器疾患による影響 2. 先天性の形態異常をもつ子ども		

7	Ⅷ. 消化器系の障害	3. 主な疾患 1) 口腔疾患・頸部嚢胞・膈孔・横隔膜の疾患 2) 食道の疾患・胃・十二指腸疾患 3) 小腸・大腸の疾患・腹膜・腹壁の疾患 4) 肝臓・胆のうの疾患・急性乳幼児下痢症 5) 急性胃腸炎	講義	
8		6) 唇裂・口蓋裂の子どもの看護 7) 食道閉鎖症の子どもの看護 8) 肥厚性幽門狭窄症の子どもの看護 9) 鎖肛の子どもの看護 10) 胆道閉鎖症の子どもの看護 11) 急性胃腸炎の子どもの看護	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート	○		○	10	
授業態度	○	○	○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	田中 三千子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅴ			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	女性生殖器、妊娠・分娩・新生児・産褥における主な疾患や異常の原因・病態・検査・治療について学ぶ。						
一般目標	1. 女性生殖器疾患の原因、病態、症状、治療を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥の疾患を理解する。 3. 早期新生児の疾患を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
女性生殖器疾患の原因、病態、症状、治療が説明できる。 妊娠・分娩・産褥の疾患が説明できる。 早期新生児の疾患が説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 女性生殖器の構造と機能	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 診察・検査と治療・処置について	講義	
2	II. 女性生殖器疾患	1. 性分化疾患、外陰・膣疾患 2. 子宮における疾患	講義	
3		3. 月経異常・更年期障害・不妊症・不育症など卵管・卵巣における疾患 4. 感染症・STDについて	講義	
4		1. 妊娠の成立と経過 2. 妊娠期間の異常である流産・早産 3. 妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群	講義	
5	IV. 分娩期の疾患	1. 分娩経過 2. 産道の異常(児頭骨盤不均衡) 3. 娩出力の異常(微弱陣痛) 4. 胎児の異常(骨盤位) 5. 胎児付属物の異常(前置胎盤・常位胎盤早期剥離)	講義	
6		6. 胎児機能不全・前期破水・分娩時の損傷 7. 帝王切開、産科出血・産科処置	講義	
7		1. 産褥の特徴 2. 子宮復古不全・産褥熱・産褥血栓症 3. 早期新生児の特徴 4. 呼吸窮迫症候群 5. 新生児壊死性腸炎・高ビリルビン血症	講義	
8	V. 産褥期の疾患 VI. 早期新生児の疾患	試験		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅵ			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神科医療の現場で出会う代表的な疾患にどのようなものがあるか、またその状態や経過からの症状の把握や、診断に至る過程、そして治療およびリハビリテーションや社会復帰支援、在宅支援などについて教授する。						
一般目標	1. 代表的な精神疾患について、その状態像や経過から症状の把握、診断の手順と方法、治療およびリハビリテーション等について、本人や家族への支援の観点から理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院)						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
代表的な精神疾患について症状や経過を理解し、診断・治療リハビリテーションなどの対処方法を知る。				
技術(精神運動領域)				
代表的な精神疾患を持つ人に対処できる看護実践能力を身に着ける。 精神科チームの医療の一員として、関わる際に担うべき役割について理解できる。				
知識(情意領域)				
精神疾患を持つ個々の人の人権を尊重し、信頼関係を築き、適切な治療的環境をとるとはどういうことか理解できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 精神疾患概論	1. 社会の動向と精神科医療の現状 2. 精神疾患の精神症状とは	講義 DVD	
2	II. 代表的な精神疾患	1. 統合失調症 2. 精神医学的診断の手順と実際	講義 RP	
3	III. 精神科での治療	1. 精神科治療の実際 2. 薬物療法を中心に	講義	
4	IV. 心理社会的療法	1. 精神療法 2. 精神障害の概念と精神科リハビリテーション	講義 GW	
5	V. 代表的な精神疾患	1. 気分障害 2. 診断と治療、復職支援など	講義	
6		3. 物質関連障害 4. 症状性を含む器質性精神障害	DVD 講義	
7		5. 神経症 6. ストレス関連障害; PTSDなど	講義	
8	VI. 社会の中の精神障害	1. 精神疾患を有する者の保護およびメンタルヘルス	GW	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○	○	評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	渡 広子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	微生物学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を教授する。						
一般目標	1. 微生物の種類と性質を理解する。 2. 感染症と生体防御機構を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進4 微生物学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
微生物の種類と性質が説明できる。 感染症と生体防御機構が説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 微生物学の基礎	1. 微生物と微生物学	講義	
2		2. 細菌の性質	講義	
3		3. 真菌の性質	講義	
4		4. 原虫の性質	講義	
5		5. ウイルスの性質	講義	
6	Ⅱ. 感染とその防御	1. 感染と感染症	講義	
7		2. 感染に対する生体防御機構	講義	
8		3. 感染源・感染経路からみた感染症	講義	
9		4. 感染症の予防	講義	
10		5. 感染症の検査と診断	講義	
11		6. 感染症の治療	講義	
12	Ⅲ. おもな病原微生物	1. 病原細菌と細菌感染症	講義	
13		2. 病原真菌と真菌感染症	講義	
14		3. 病原原虫と原虫感染症	講義	
15		4. おもなウイルスとウイルス感染症	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	常岡 英弘		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	医療放射線学			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	放射線を用いた検査と放射線治療の適応と有効性、人体に及ぼす影響について学ぶ。						
一般目標	1. 放射線の影響、利用、防護などの基礎知識を理解する。 2. 画像診断の方法を理解する。 3. 放射線治療を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
放射線の影響、利用、防護などの基礎知識が説明できる。画像診断の方法が説明できる。 放射線治療が説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 放射線とは	1. 放射線の基礎知識 2. 放射線の利用 3. 放射線の影響 4. 放射線の防護 5. 医療現場の放射線画像	講義	山下
2	II. 画像診断	1. X線検査(一般撮影、アンギオ) 2. X線診断	講義	小池
3		3. MRIの特徴 4. MRI画像	講義	山根
4		5. CT撮影装置 6. CT画像処理	講義	小池
5		7. 核医学検査(ガンマカメラ、骨シンチグラム) 8. 超音波検査の特徴、超音波画像診断 9. IVR・血管造影	講義	伊原
6		1. 放射線治療の原理 2. 放射線治療の基礎 3. 正常組織の耐容線量と治療効果	講義	鍋屋
7		4. 放射線治療の看護 5. 放射線治療における看護師の役割 6. 放射線治療に伴う有害反応と看護 7. 部位別放射線治療の実際	講義	
8	IV. 放射線防御	1. 放射線による障害と防護	講義	安井

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	山下雅刀 小池正紘 山根正聡 伊原研一郎 鍋屋空大 安井謙一郎		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	臨床薬理			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	薬物についての基礎的知識を理解させ、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について説明する。						
一般目標	1. 薬物の特徴、発生機序、影響などを理解する。 2. 薬物の適正な使用方法を理解する。 3. 疾患の治療に用いる薬物の主作用・副作用を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
薬物の特徴、発生機序、影響などが説明できる。 薬物の適正な使用方法が説明できる。 疾患の治療に用いる薬物の主作用・副作用が説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 医薬品	1. 医薬品とは 2. 医薬品の分類と名前 3. 医薬品に関する法律	講義	
2	II. 医薬品の作用原理とその影響	1. 薬理作用の原理 2. 体内における薬の動き(薬物動態) 3. 薬理効果に影響する要因 4. 有害反応 5. 相互作用 6. 混合の可否、保存方法	講義	
3	III. 医薬品の適正な使用	1. 警告と禁忌 2. 与薬、誤薬	講義	
4	IV. 主な疾病に使用する薬 末梢神経作用薬	1. 自律神経作用薬 2. 筋弛緩薬 3. 末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
5	V. 抗感染症薬	1. 抗感染症薬 2. 消毒薬	講義	
6	VI. 抗悪性腫瘍薬	1. 抗悪性腫瘍薬、ホルモン剤、トレチノイン、免疫療法薬	講義	
7	VII. 抗炎症薬	1. 抗アレルギー、抗炎症薬	講義	
8	VIII. 免疫治療薬	1. 免疫機能に作用する薬物	講義	
9	IX. 中枢神経作用薬	1. 睡眠薬 2. 向精神薬 3. 抗パーキンソン薬 4. 抗てんかん薬	講義	
9	IX. 中枢神経作用薬	5. アルツハイマー病薬 6. 全身麻酔薬 7. 麻薬性鎮痛薬 8. 中枢神経興奮薬	講義	

10	X. 循環器系作用薬	1. 血液に作用する薬物	講義	
11	XI. 呼吸器系作用薬	1. 呼吸器系と消化器系に作用する薬物	講義	
12	XII. 消化器系作用薬	1. 抗消化性潰瘍薬、消化不良改善薬、制吐薬、催吐薬、催下薬	講義	
13	XIII. ビタミン薬	1. 治療薬としてのビタミン	講義	
14	XIV. 救急薬	1. 救急時に使用する薬剤、漢方薬、消毒薬	講義	
15	試験	1. 国家試験に出題される薬理に関する問題	講義	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	山田 克弘		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	保健医療論			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	現代医療の課題について課題を提示して、学生が自分の考えを明らかにしてグループで意見交換を行う方法で、毎回授業を進める。将来変わりゆく社会に対応できる自律した看護師になるための素地を養う。						
一般目標	1. 医療の歴史、現代の医療制度を理解できる。 2. 現代医療の課題を理解できる。 3. 現代医療の課題について自らの考えを表現し意見交換ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度1 総合医療論（医学書院） 厚生労働統計協会 図説国民衛生の動向						

到達目標

知識(認知領域)				
医療の歴史、現在の医療制度を説明できる。 現代医療の課題を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
現代医療の課題について自分の考えをワークシートに記述し発表できる。				
態度(情意領域)				
授業に積極的に参加できる。 課題についてグループの中で表現できる。 他者の意見を受け入れることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 医療と看護の原点	1. 命について 2. 健康とは 3. 医療と看護の役割	講義 演習	
2	II. 医療の歩みと医療観の変遷	1. 現代医学の起源 2. わが国の医療がたどってきた道 3. 20世紀の医療 4. 医療観のうつりかわり	講義 演習	
3	III. 私たちの生活と健康 救急医療と蘇生、 社会制度	1. 救急医療と蘇生 2. 医療法 医療保険の仕組み 3. 環境衛生、保健・福祉行政	講義 演習	
4	IV. 私たちの生活と健康 高齢化社会、ノーマライゼーション、精神医療	1. 高齢化社会 2. 障害者のノーマライゼーション 3. 精神医療	講義 演習	
5	V. 科学技術の進歩と現代 医療の最前線	1. がん診療の最前線 2. 移植医療 3. 人工臓器の開発 4. 体外受精と出生前診断 5. 再生医療	講義 演習	
6	VI. 現代医療の新たな課題	1. 薬の副作用 手術偶発症 医原病 2. 脳死と臓器移植 3. 地球環境問題 4. インフォームドコンセントと医療情報の開示	講義 演習	
7	VII. 医療を見つめ直す新しい視点	1. 臨床疫学 2. 患者の安全 3. 医療の管理と評価	講義 演習	
8	VIII. 保健・医療・福祉の潮流	1. チーム医療 2. プライマリケアの新たな展開 3. 地域包括ケアシステム	講義 演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○	○	40	
授業態度				評価なし	
演習				評価なし	
担当教員	下野 典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	公衆衛生学			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	公衆衛生とは集団の疾病予防や健康の維持・増進を目的とする科学・技術である。本授業では、公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することを目的とする。公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、さらに人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。						
一般目標	1. 人口変動や疾病構造の変化とその要因を理解する。 2. 我々の健康生活を支える様々な保健体制の現状を理解する。 3. 保健・医療・福祉の連携の現状と今後の課題について考える能力を養う。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生学（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 公衆衛生の理念、医療の動向と医療保障について説明できる。 新しい公衆衛生のヘルスプロモーションを学び、地域保健における意義を説明できる。 環境保健を学び、自身の健康づくりと共に、家族や職場、地域での総合的な健康づくりを推進する方法を説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 公衆衛生とは	1. 看護学生が公衆衛生を学ぶ意味を理解する。	講義	
2	II. 公衆衛生の仕組み	1. 我が国における公衆衛生の仕組みを理解する。	講義	
3	III. 環境と健康(1)	1. 地球規模の健康と身近な環境と健康、生活のつながりを知る	講義	
4	環境と健康(2)	2. 環境保全の大切さを理解する	講義	
5	IV. 国際保健	1. 国際保健活動の現場と国際保健の使命を知る	講義	
6	V. 疫学・保健統計(1)	1. 集団の健康状態を表す指標と意味を知る	講義	
7	疫学・保健統計(2)	2. 公衆衛生の場での疫学を知る。	講義	
8	VI. 感染症対策	1. 感染症とその予防対策を知る。	講義	
9	VII. 地域保健(1)	1. 母子保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
10	地域保健(2)	2. 成人保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
11	VIII. 地域保健(3)	1. 高齢者保健、精神保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
12	地域保健(4)	2. 歯科保健、障害者保健、難病保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
13	IX. 学校保健	1. 学校保健の目的としくみを知る	講義	
14	X. 産業職場	1. 職場と健康について知る。	講義	
15	XI. 災害保健	1. 健康危機管理、災害保健について知る。	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	岩本 美江子		実務経験紹介	有	http://www.shiseikan.ac.jp

科目名	社会福祉Ⅰ（社会保障制度）			単位数	1単位	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会保障の概念や対象、我が国の社会保障制度の体系とその具体的な内容、関連する施策について教授する。						
一般目標	1. 社会福祉と社会保障の概念を理解する。 2. 社会資源と医療保障の関連について学び、保健・医療・福祉の協働の意義について理解する。 3. 介護保険制度について理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
社会保障の概念や対象、我が国の社会保障制度の体系とその具体的な内容、関連する施策について説明できる。				
態度(情意領域)				
社会保障の概念や対象、我が国の社会保障制度の体系とその具体的な内容、関連する施策について、意欲を持って理解する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 社会保障制度と社会福祉	1. 社会保障の概念	講義	
2	II. 社会保障制度	1. 社会保障の目的・機能	講義	
3		2. 社会保障の体系	講義	
4		3. 社会保障内容	講義	
5		4. 社会保障給付費	講義	
6	III. 社会福祉の法制度	1. 社会福祉の法制度の歴史	講義	
7		2. 社会福祉法と福祉6法	講義	
8		3. 社会福祉法と福祉6法	GW	
9	IV. 医療保障	1. 医療保障制度の沿革	講義	
10		2. 保険診療のしくみ	講義	
11		3. 公費負担医療	講義	
12	V. 介護保険制度	1. 介護保険制度の概要	講義	
13	VI. 所得保障制度	1. 所得保障制度の仕組み	講義	
14	VII. 年金保険制度	1. わが国の年金保険制度の仕組み、高齢者福祉	講義	
15		2. 公的扶助、貧困、生活補助	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)			○	5	
担当教員	佐藤 正昭		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	社会福祉Ⅱ			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	これからの看護・医療は施設から在宅・地域へと変わる。患者ではなく生活者としての視点を持つ際、社会福祉・社会保障の理解が求められる。授業を通して社会福祉・社会保障の理解を深める。						
一般目標	1. 社会保障制度の各仕組の概要を理解する。 2. 社会福祉の専門性を理解し、多職種連携を構築できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
社会保障制度、社会福祉の方法論を理解する。				
態度(情意領域)				
看護師として社会福祉専門職と協働できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 社会福祉分野とサービスⅠ	1. 高齢者福祉	講義	
2	II. 社会福祉分野とサービスⅡ	1. 障害者福祉	講義	
3	III. 社会福祉分野とサービスⅢ	1. 児童家庭福祉	講義	
4	IV. 社会福祉分野とサービスⅣ	1. 少子化対策、児童虐待	講義	
5	V. 社会福祉実践Ⅰ	1. ケースワーク	講義	
6	VI. 社会福祉実践Ⅱ	1. 間接援助技術、関連援助技術	講義 GW	
7	VII. 社会福祉実践Ⅲ	1. 社会福祉援助の検討課題	講義	
8	VIII. 社会福祉実践Ⅳ	1. 連携の重要性	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート			○	20	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	横山 順一		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	保健統計			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	保健統計は保健・医療・看護の分野での問題を考えていく上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報を学ぶのに応用できる科目である。授業では、基礎的な統計学の知識を説明し、さらに、あるデータが得られた時にどのような統計方法が使えるか(使うべきか)、またその統計処理した結果をどう読み取るかを説明する。さらに人口静態統計、人口動態統計の基礎的なものを理解する。						
一般目標	1. 統計学の基礎となる確率・分布理論が理解できる。 2. 測定データから適切な検定方法を選び実行することができる。 3. 統計分析結果を読み取ることができる。 4. 人口静態、人口動態統計値の基本を理解することができる						
テキスト 参考書等	やさしい保健統計学改訂第5版（南江堂）						
	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
保健統計の基礎的技法を説明できる。 保健統計の正しい読み取り方、まとめ方を説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 保健統計とは	1. 尺度、度数分布、代表値、散布度	講義 演習	
2	II. 正規性の検定	1. 確率、確率分布、母集団統計値の推定	講義 演習	
3	III. 仮説検定(1)	1. 仮説検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準(危険率)、検定統計量	講義 演習	
4	仮説検定(2)	2. 2標本の平均値の差の検定(t検定)	講義 演習	
5	仮説検定(3)	3. χ^2 二乗検定(適合度の検定、独立性の検定)	講義 演習	
6	IV. 相関と回帰	1. 相関係数	講義 演習	
7	V. 国民保健の現状	2. 人口静態・動態統計、統計図表の作成と分類	講義 演習	
8	試験	試験	講義 演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	岩本 美江子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護関係法令			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	保健・医療・福祉に関する諸法規の概要を学び、看護師としての責任と義務を理解する。 看護専門職者として必要な看護に関係する法規の基本的事項を学ぶ。 厚生行政関連法、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規を重点に理解する。						
一般目標	1. 国民として健康な生活を維持するために必要な法を理解する。 2. 看護業務に携わる人の身分や業務に関する法を理解する。 3. 個々の法律が、法制度全体の中でどのような位置づけにあるのかを理解すること						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護師の業務遂行に必要なその他の諸法規について説明できる。				
態度(情意領域)				
看護職の身分法(資格法)である保健師助産師看護師法の規定を理解し、説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 法の概念	1. 看護師をとりまく法律について	講義	
2	II. 看護法	1. 保健師助産師看護師法を学ぶ①	講義	
3		2. 保健師助産師看護師法を学ぶ② 3. 看護師等の人材確保の促進に関する法律を学ぶ。	講義	
4		1. 医療提供の場を規定する医療法について①	講義	
5	III. 医事法	2. 医療提供の場を規定する医療法について②	講義	
6	IV. 保健衛生法	1. 保健衛生を規定する保健衛生法について①	講義	
7		2. 保健衛生を規定する保健衛生法について②	講義	
8	V. 薬務法	1. 薬務法について①	講義	
9		2. 薬務法について②	講義	
10	VI. 環境衛生法	1. 環境衛生法について	講義	
11	VII. 社会保険法	1. 社会保険に関する法律について	講義	
12	VIII. 福祉法	1. 福祉に関する法律について	講義	
13	IX. 労働法社会基盤整備	1. 労働するうえで規定されている労働法について	講義	
14	X. 環境法	1. 環境に関する法律について	講義	
15	XI. 学習のまとめ	1. 看護法令の国家試験	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート	○			20	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	今川 晋平		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護学概論			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割を学ぶ。						
一般目標	1. 看護の理念を構成する要素について説明できる。 2. 看護の歴史や看護理論を手がかりに、看護の役割と機能、看護師の倫理を説明できる。 3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 礎看護学1 看護学概論（医学書院）						
	ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト図解でよくわかる（西東社）						
	国民衛生の動向（厚生労働統計局）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
主要な看護理論家の示す主要概念「人間・健康・環境・看護」を説明できる。 ICNや日本看護協会の「看護の定義」「看護者の倫理綱領」の前文から看護師の役割と機能を説明できる。 人口動態統計からわが国の健康課題を年齢区分別に1つ以上上げることができる。 職業としての看護の歴史を学び、保健師助産師看護師法に基づく看護師の業務が説明できる。				
態度（情意領域）				
グループワークにおいて積極的に意見交換を行い、自身の役割を果たすことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 看護とは	1. 看護を学ぶにあたって 1) 看護師のイメージ 2) 看護師に求められる能力	GW	
2		1. 看護の本質 1) 看護師に求められる能力とは・・・ 2) 近代看護の確立と看護の本質	GW	
3		2. フローレンス・ナイチンゲールの業績	講義	
4		3. フロレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」	講義	
5	Ⅱ. 看護の定義	1. 人間・健康・環境・看護 2. 「医学の父」ヒポクラテスの誓い 3. ICNの発足と看護の定義 4. ヴァージニア・ヘンダーソンの看護の定義 5. 国際赤十字社の創立 6. 看護の定義の構成要素	講義	
6	Ⅲ. 看護の役割と機能	1. 看護実践とその質保証に必要な要件 1) ヘンダーソン理論の展開「状況設定」 2) 看護の役割・機能の拡大	講義	
7	Ⅳ. 看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」の関係 2. セリエのストレス学説、ラザルスのストレス コーピング理論 3. マズローの基本的欲求階層説	講義	

7	IV. 看護の対象の理解	4. リディア・ホールのケアリング理論	講義	
8		5. 人間関係論 ペプロウ、トラベルビー	講義	
		6. システム理論 ロイ適応モデル		
9		7. セルフケア理論 オレム	講義	
		8. プロセスレコード ペプロウ、オーランド、ウィーデンバック		
10	V. 国民の健康・生活の全体像の把握	1. WHO健康の定義	講義	
		2. プライマリーヘルスケア ・ヘルスプロモーション		
		3. 障害の分類 国際障害分類、国際生活機能分類		
		4. 少子高齢化社会の現状		
11		5. 国民のライフサイクルと健康・生活 1)人口静態 全国人口の動向 2)人口ピラミッドの推移 3)少子高齢化 人口の推移と将来推計	講義	
12	VI. 看護の提供者	1. 保健師・助産師・看護師の資格制度	講義	
		2. GHQ支援の下での看護制度改革		
13		3. 保健師助産師看護師法	講義	
		4. 看護の資格と養成に関わる制度		
14	VII. 看護の提供のしくみ	1. 看護サービスの提供の場	講義	
15		2. 看護サービスと経済のしくみ	講義	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				10	
担当教員	野崎 美紀		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	臨床看護倫理			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	臨床の倫理原則・行為の構造と倫理・意志決定のプロセスを学び、実際の臨床で発生する様々な倫理的場面に対応する基礎的能力を獲得する。						
一般目標	1. 看護の場面で重要な道徳および倫理原則を理解する。 2. 倫理に関係する言葉の意味を理解し、看護との関連について考える。 3. 事例検討から倫理的ジレンマを解決するための方法を学ぶ。 4. さまざま看護活動における倫理的課題について考える。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護学1 看護学概論（医学書院） 看護者の基本的責務（日本看護協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護の場面で重要な道徳および倫理原則を理解する。 倫理に関係する言葉の意味を理解し、看護との関連について考える。 事例検討から倫理的ジレンマを解決するための方法を学ぶ。 さまざま看護活動における倫理的課題について考える。				
態度(情意領域)				
臨床で発生する様々な倫理的場面に対応する基礎的能力を身につける。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 現代社会と倫理	1. なぜ倫理について学ぶのか	講義	伊藤
		2. 倫理、道徳、法		
2		3. 現代の医療・看護と倫理	講義	吉村
		4. 職業倫理としての看護倫理		
3	Ⅱ. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	1. 患者の権利とインフォームドコンセント	講義	伊藤
4		2. 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 1)守秘義務の遵守と個人情報保護 2)代理意思決定 3)生殖をめぐる倫理的問題 4)死をめぐる倫理的問題	講義	
5			講義	
6			講義	
7	Ⅲ. 看護実践における倫理問題への取り組み	1. 医療専門職の倫理規定 1)看護の本質としての看護倫理 2)医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3)倫理的課題に取り組むためのしくみ	講義 課題学習 GW	
8				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	下野 典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護過程Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護過程は、目的や機能をもった看護を具体的に実践するための方法論である。病態論や成人、老年、精神看護学概論で得た知識を統合し、事例を通して対象理解と看護実践とのつながりを講義する。また、看護過程を展開する基盤となるクリティカルシンキングやリフレクションについて演習を行う。看護過程は、各専門領域での対象理解や看護実践の基本となる。特に、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰの中心となる科目である。						
一般目標	1. 看護過程の概念および構成要素を理解できる。 2. 事例の看護過程を通し、看護に必要な思考を理解できる。 3. ゴードンの機能的健康パターンを説明できる。 4. 看護過程を通し、対象を理解する姿勢を身に着ける。 5. 対象を統合的にとらえる視点を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針（照林社）						
	患者さんの情報収取ガイドブック（メヂカルフレンド社）						
	関連図の書き方をマスターしよう（サイオ出版）						
	看護過程に沿った対症看護（学研）						
	看護がみえる④ 看護過程の展開（メディックメディア）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護過程の意義、目的、構成要素を理解できる ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを説明できる 看護におけるクリティカルシンキングの重要性を理解できる 看護記録の構成要素と看護過程の関連性を説明できる				
技術(精神運動領域)				
ゴードンの枠組みで事例をアセスメントできる クリティカルシンキングを用いた看護過程の展開を体験できる				
態度(情意領域)				
自ら課題に取り組むことができる。 グループワークに主体的に取り組む意見交換ができる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 問題解決過程と看護過程	1. 看護過程とは何か (1) どうして看護過程を用いるか (2) 問題解決過程で考える	講義	下野
2	II. 看護師に必要な思考	1. 看護師に求められるクリティカルシンキングを知る 2. 看護師に必要な倫理的配慮と価値判断の復習 3. リフレクション	講義	
3	III. 看護記録と看護過程の各段階	1. 看護記録の法的位置づけ 2. 実習記録の取り扱い 3. 情報の種類	講義	
4	IV. 全体像の書き方と看護問題の明確化	1. アセスメントの統合 2. 全体像を表現と問題の優先順位	講義	
5	V. 看護計画と計画の評価	1. 看護計画の目標の立て方 2. 介入の表現 3. 看護計画をSOAP記録での評価 4. 看護問題の評価	講義	
6	VI. アセスメントの枠組み	1. 情報の分析	講義	

6	VI. ノーメンタリ・ヘルスケア	2. ゴードンの枠組みの特徴	講義	下野
7	VII. 事例展開によるアセスメント	1. 健康知覚－健康管理パターン	講義	
		2. 栄養－代謝パターン		
8		3. 排泄パターン	講義	
		4. 活動－運動パターン		
9		5. 睡眠－休息パターン	講義	
		6. 認知－知覚パターン		
10		7. 自己知覚－自己概念パターン	講義	
		8. 役割－関係パターン		
11		9. セクシュアリティ－生殖パターン	講義	
		10. コーピングストレス耐性パターン		
12		11. 価値信念パターン	講義	
		12. 記録の整理		
13	VIII. 事例展開による問題の明確化	1. 全体像の発表	講義	百合田
		2. 全体の振り返り		
14	IX. 事例展開による看護計画	1. 看護計画の目標の立て方	GW PW	
		2. 看護介入の方法		
15	X. 事例展開による実施と評価	1. SOAP記録	GW PW	
		2. 看護問題の評価		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	20	
担当教員	百合田 名奈美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護過程Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護過程Ⅰに続き、基礎看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱにつながるように、事例の演習で看護過程について指導する。						
一般目標	1. ゴードンの機能的健康パターンを用いて対象を統合的に説明できる。 2. 対象の健康上の課題を明確化するための考え方を説明できる。 3. 関連図を記載し、対象の全体像の理解と健康上の課題を統合する過程を説明できる。 4. 対象のニーズを充足するための看護計画を立案できる。 5. 対象の健康上の課題を評価する視点を説明できる。 6. 事例を用いて看護過程を展開できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
	関連図の書き方をマスターしよう（サイオ出版）						
	看護過程に沿った対症看護（学研）						
	看護がみえる④ 看護過程の展開（メディックメディア）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報収集の項目を列挙できる 事例に対する関連図を用いて、全体像を発表できる 事例に対する看護問題の優先順位を説明できる 事例に対する看護計画を叙述できる				
技術(精神運動領域)				
事例を通してアセスメントが実践できる 事例に対する援助計画を実践できる				
態度(情意領域)				
事例に対する看護実践を振り返ることができる グループワークに主体性を持って協力できる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 事例の展開	1. 事例のアセスメント	講義 PW	
2			講義 PW	
3		2. 事例のアセスメントとグループワーク	GW	
4		3. 事例のアセスメントと全体像・看護問題統合	PW	
5		4. 事例の全体像発表	GW	
6		5. 事例の看護計画、援助計画の立案	PW	
7			GW	
8		6. 看護計画・援助計画に基づいた、模擬患者への援助を実施	GW	
9				
10		7. 事例に対する評価	PW	
11	Ⅱ. 事例の展開	1. 事例に対する情報収集内容	GW	
12		2. 模擬患者への情報収集	GW	
13		3. 事例に対するアセスメント	PW	
14				
15				

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○		80	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	百合田 名奈美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	共通基本看護技術（安全コミュニケーション）			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を習得する。						
一般目標	1. 看護技術の意義が説明できる。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法が説明できる。 3. 安全を守るための基本的な技術が実施できる。 4. 感染予防の意義を理解し、基本的な技術を実施できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
	写真でわかる基礎看護技術 アドバンス（インターメディカ）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護技術における共通の安全・コミュニケーションの意義が理解できる。 看護におけるコミュニケーション、感染予防策の方法が理解できる。				
技術(精神運動領域)				
感染防止技術(手洗い・手袋・ガウンテクニック)の習得ができる。				
態度(情意領域)				
GWにおける役割を果たすことができる。 技術習得に向けて協働できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 看護の方法と技術	1. 看護技術とは	講義 GW	百合田
		2. 技術の発展と習得のために		
2		3. 看護技術を適切に実践するための要素		
3	Ⅱ. 人間関係を成立・発展させるための技術	1. コミュニケーションの意義と目的	講義	
		2. 看護・医療におけるコミュニケーション		
4	Ⅲ. コミュニケーションを成立させる要素	1. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	
		2. 接近的行動と非接近的行動		
5	Ⅳ. コミュニケーション技術の実際	1. プロセスレコードによるコミュニケーションの分析	講義	
6		2. 効果的なコミュニケーションの実際①	講義 演習	
7		3. 効果的なコミュニケーションの実際②	講義 演習	
		4. 医療におけるコミュニケーション・アサーティブネス		
8	Ⅵ. コミュニケーション障害への対応	1. 言語的コミュニケーションに必要な身体機能	講義	
		2. コミュニケーション障害がある人への対応		
9	Ⅷ. 感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識・身体防御機構、自然免疫	講義	大庭
		2. スタンダードプリコーション		
10		3. 感染経路別予防策・感染予防対策の実際	講義	
		4. 手洗い、マスク、ガウン、手袋の取り扱い		
11	Ⅸ. 感染防止の技術の実際	1. 手洗い、手袋	デモスト 演習	大庭
12		2. ガウンテクニック		
13			演習	

14		3. 手洗い、滅菌手袋、ガウンテクニックの演習とチェック	技術 ^{ハイ} チェック	大庭
15				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	20	
担当教員	百合田 名奈美 大庭 沙織		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を学ぶ。						
一般目標	1. 生活行動から見るフィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて説明できる。 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について説明できる。 3. 身体各部の形態や身体機能を正しく測定し、評価する技術を実施できる。 4. 看護における観察・記録・報告の意義と方法を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
	フィジカルアセスメントディシジョン（学研）						
	看護がみえる③フィジカルアセスメント（メディックメディア）						
	目でみるからだのメカニズム（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
ヘルスアセスメントの意味が理解できる。 フィジカルアセスメントに必要な技術の方法が理解できる。 系統別フィジカルアセスメントが理解できる。				
技術(精神運動領域)				
バイタルサインの技術が習得できる。				
態度(情意領域)				
技術習得に向けて協働できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. ヘルスアセスメントとは	1. ヘルスアセスメントの意味と観察	講義	田中恵
		2. ヘルスアセスメントにおける視点		
2	Ⅱ. フィジカルアセスメントに必要な技術	1. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	
		2. 情報収集と整理		
3		3. フィジカルアセスメントの基本技術 (問診・視診・触診・打診・聴診)	講義	
4	Ⅲ. バイタルサイン	1. バイタルサインとは	講義	
		2. 体温:体温維持のメカニズム、観察ポイント、測定方法		
5		3. 脈拍:循環のメカニズム、観察ポイント、測定方法	講義	
		4. 呼吸:呼吸のメカニズム、観察ポイント、測定方法		
6		5. 血圧:血圧とは、血圧測定時のポイント、測定方法	講義	
		6. 血圧計の取り扱い方		
7		7. バイタルサインの測定	演習	
8		8. 意識:基礎知識、意識状態の観察ポイント	講義	
		9. 事例からバイタルサインの実際を考える		
9	Ⅳ. 計測	1. 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲	講義 DVD	田中勝 清木
	Ⅴ. 系統別のアセスメント	1. 頭頸部、呼吸器系のフィジカルアセスメント		
10			2. 循環器系、腹部、神経系のフィジカルアセスメント	講義
11	Ⅵ. フィジカルアセスメントの 実際	1. グループに分かれて演習 (計測、バイタルサイン)	演習	田中恵
12				
13		2. 技術チェック:血圧測定	技術 チェック	田中恵
14				
15				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	20	
担当教員	田中 恵美子 田中 勝男 清木 優二		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅰ（環境、活動休息の援助）			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	環境調整の技術は、普段の生活とはことなる集団生活、治療の場としての療養環境にどのように看護師がかかわるかを中心に講義する。実習室での演習を通して、療養環境と日常生活との違いを学ぶ場とする。ベッドメイキングができるように指導を行う。また、活動・休息の援助技術は、姿勢の基礎からはじめ、実際の道具を用いながら、車いすへの移乗の技術を指導する。療養環境の技術は、基礎看護学実習Ⅰの課題にもなる。						
一般目標	1. 快適な日常生活を過ごすことができるように、生活環境を整える技術を習得する。 2. ベッドメイキングと臥床患者のリネン交換を安全・安楽に援助する技術を習得する。 3. ボディメカニクスの原理を用いて、臥床患者へ効率的な体位変換を実施する。 4. 運動と休息の意義を理解し、活動および休息を促す基本的な技術を習得する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
	ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト図解でよくわかる（西東社）						
	写真でわかる基礎看護技術アドバンス（インターメディカ）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
療養生活における、安全安楽な生活環境を説明できる。 療養生活における休息・睡眠を適切に整える方法を理解できる。 姿勢の基礎知識と、ボディメカニクスの原理を理解できる。 体位の種類とその目的を理解できる。 移乗・移動に用いる用具の特徴とその方法を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
ベッドメイキングが習得できる。 ベッド上の水平移動・垂直移動が実施できる。 ベッドから車いすへの移乗が習得できる。				
態度(情意領域)				
周囲と協力し技術練習に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 日常生活援助技術とは	1. 看護技術の基本 1)健康と生活環境	講義	
		2. 病室の環境		
2	Ⅱ. 環境を整える技術	1. 環境を整える援助の意義と目的	講義 GW	
		2. 入院生活がもたらす環境を考える		
3		3. ベッド周囲の環境整備	講義 DVD	
		4. ベッドメイキング(ポイント)		
4	Ⅲ. 環境を整える援助の 実際	1. ベッドメイキング、物品の準備 1)寝具のたたみ方・下シーツ	デモスト 演習	
5		2. ベッドメイキング 1)包布・枕	デモスト 演習	
6		3. ベッドメイキング練習	演習	
7		4. ベッドメイキングのチェック	演習 チェック	
8				
9		1. 基本的活動の基礎知識 ・ボディメカニクス	講義	
		2. 日常生活動作 ・廃用症候群の予防 ・関節可動域		
10	Ⅳ. 基本的活動の援助	3. ボディメカニクスを活用した技術	講義	
		4. 体位変換 ・ポジショニング		
11		5. 移動の基礎知識と技術のポイント(車椅子、ストレッチャー)	講義	

11		6. 歩行補助具使用時の介助の実際	講義	
12	V. 活動援助の実際	1. 体位変換	講義	
		2. 車椅子移乗		
13		3. 車椅子移乗の演習	演習	
14		4. 車椅子移乗の演習とチェック	演習 チェック	
15	VI. 睡眠と休息の援助	1. 睡眠の基礎知識 ・睡眠障害のアセスメント	講義	
		2. 援助の実際		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			5	
課題レポート				評価なし	
授業態度				5	
演習(GW・技術等)		○	○	20	
担当教員	隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	食事・排泄の意義、メカニズム、アセスメントの方法を講義する。食事の援助は、体験型の講義を行う。排泄の援助は、陰部洗浄からのおむつ交換をデモンストレーションを行い指導する。						
一般目標	1. 対象の栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解する。 2. 対象に適した食事を、その人らしく満足に摂取できるようにするための援助技術を習得する。 3. 排泄の意義が理解できる。 4. 対象に適した排泄援助と自然な排泄を促すための基本的な技術を習得する。 5. 排泄を促す方法と留意点を理解する。 6. 導尿時の無菌操作方法を理解できる。						
テキスト	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
参考書等	写真でわかる基礎看護技術アドバンス（インターメディカ）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解できる 食事介助の注意点と具体的方法を理解できる 摂食・嚥下訓練の注意点と方法を理解できる 経鼻経管栄養の具体的な方法を理解できる 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解できる 導尿法の注意点と方法を理解できる 自然排便を促す方法と浣腸と摘便の方法を理解できる 医療器具の管理及び環境整備の意義や重要性を理解できる				
技術(精神運動領域)				
経鼻経管栄養法の固定と滴下を体験できる 陰部洗浄からおむつを交換する技術を習得できる 自然排泄の方法を体験できる 一時導尿の方法を体験できる 無菌操作を体験できる				
態度(情意領域)				
周囲と協力し技術練習に取り組むことができる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 食事の援助技術	1. 食事の意義	講義	百合田
		2. 食事にかかわる解剖生理		
		3. 食事療法		
2		4. 食事に関するアセスメント	講義	
3		5. 食事の介助と口腔ケア	講義	
4		6. 食事の介助と口腔ケアの実践	演習	
5				
6		7. 摂食・嚥下訓練	講義	
7		8. 非経口的栄養摂取の援助と実践	講義 演習	

8	Ⅱ. 排泄の援助技術	1. 排泄の意義	講義	磯部
		2. 排泄にかかわる解剖生理		
9		3.排泄を促す援助	講義	
		4. 排泄のアセスメント		
10		5.おむつ交換・陰部洗浄・導尿	講義 デモスト	
11				
12		6. おむつ交換・陰部洗浄・導尿の実践	演習	
13				
14				
15				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	20	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	10	
担当教員	百合田 名奈美 磯部 純子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅲ（清潔、死亡時の援助）			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	清潔の援助技術は、実習で実践することの多い科目である。療養生活を送る対象に合わせた清潔の援助の方法を、解剖学と関連させながら講義する。皮膚の構造や呼吸循環との関連性が強い科目である。技術面は、主に寝衣交換、洗髪の方法習得を指導する。死の看取りの援助については、死後の身体変化と必要となる手続きなどの処置を中心に講義を行う。						
一般目標	1. 清潔の意義を理解し、身体各部の清潔を保つための基本的な技術を習得する。 2. 衣生活の意義を理解し、衣生活を整える援助技術を習得する。 3. 死について考え、その人らしい死を迎えられる援助を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
	写真でわかる基礎看護技術アドバンス（インターメディカ）						
	目でみるからだのメカニズム（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
皮膚と粘膜の構造と機能を知り、生活援助の効果と全身への影響を理解する。 清潔援助の方法を選択する視点を説明できる 療養生活における衣生活の基礎を説明できる 死亡による身体の変化を理解できる 死にゆく人と家族の心理を理解できる 看護における葬送儀礼の意味を理解できる				
技術(精神運動領域)				
清潔援助の基礎知識をもとにした生活援助を実施できる 寝衣交換の援助を実施できる				
態度(情意領域)				
周囲と協力し技術練習に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 清潔援助の基礎知識	1.1日の生活から「清潔」を考える	講義 GW	
		2.清潔援助の意義		
	Ⅱ. 清潔援助の効果	1.皮膚の機能と構造から考える清潔行動		
2	Ⅲ. 清潔の援助	1.入浴・シャワー浴の方法と必要なアセスメント	講義 VTR	
3		2.全身清拭・部分清拭の方法と必要なアセスメント		
4		3.手浴・足浴の方法と必要なアセスメント		
5		4.洗髪の方法と必要なアセスメント		
6	Ⅳ. 衣生活の援助	1. 衣服の持つ役割	講義 VTR	
		2. 寝衣交換のポイント		
7	Ⅴ. 看取りの援助	1. 死の徴候と危篤時、死亡時のケア・死後の処置	講義	
		2. グリーフケア		
8	Ⅵ. 援助の実際	1. 寝衣交換	デモスト 演習	
9				
10		2. 洗髪・手足浴①	デモスト 演習	
11				
12		3. 洗髪・手足浴②	デモスト	

13	VI. 援助の実際	3. 加害者に対する	演習	
14		4. 全身清拭	デモスト 演習	
15				

成績評価方法

成績評価方法					
	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 （ ）内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○	○	30	
授業態度		○	○		
演習（GW・技術等）		○	○		
担当教員	百合田 名奈美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	診療補助技術			単位数	2	時間数	45
対象学生	2年	開設期	前期	教員実務経験対象		有	
授業概要	診療補助技術は、呼吸・循環を整える援助、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の解除技術が含まれ、範囲の広い科目である。演習する技術は、吸引、包帯法、注射、採血である。侵襲をとまなう技術であるため、モデル人形などを用いながら、演習を行う。						
一般目標	1. 診療・検査時の看護師の役割を理解し、基本的な検体採取方法を理解する。 2. 吸引・吸入の目的と生体への影響を理解し、呼吸を整えるための基本的技術を習得する。 3. 創傷管理の目的を理解し、創傷の管理方法の基本的技術を理解する。 4. 洗浄の目的と生体への影響を理解し、洗浄時の援助技術を理解する。 5. 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な与薬技術を習得する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
	医療安全ワークブック（医学書院）						
	写真でわかる臨床看護技術①（インターメディカ）						
	写真でわかる臨床看護技術②（インターメディカ）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
診療・検査時の看護師の役割を理解し、基本的な検体採取方法を理解する。 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な与薬の方法を理解する。 洗浄の目的と生体への影響を理解し、洗浄時の援助技術を理解する。 創傷管理の目的を理解し、創傷の管理方法の基本的技術を理解する				
技術(精神運動領域)				
吸引の目的と生体への影響を理解し、方法を体験できる。 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の方法を体験できる。 包帯法を体験できる。				
態度(情意領域)				
周囲と協力し技術練習に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 診断・治療に伴う看護	1. 診察と看護、各種検査の介助と看護	講義	隅
2	II. 症状・生体機能管理技術	1. 検体検査、生体情報モニタリング	講義	
3	III. 呼吸を整えるための看護	1. 酸素療法の目的、投与方法、管理方法、看護がわかる	講義	
4		2. 排痰ケア、ネブライザー時の看護、体位の調整方法がわかる	講義	
5		3. 口腔内吸引	演習	
6		4. 気管内吸引	演習	
7	IV. 循環を整えるための看護	1. 循環を促すための援助方法がわかる	講義	
8	V. 体温を整えるための看護	2. 罨法と体温異常時の看護方法についてわかる	講義	
9	VI. 創傷管理技術	1. 創傷管理	講義	
10		2. 包帯法	講義	
11	VII. 与薬の技術	1. 与薬の基礎知識と看護師の役割、薬剤の取り扱い方法、経口与薬・吸入・点眼・点鼻	講義	堀
12		2. 与薬の基礎知識と看護師の役割、薬剤の取り扱い方法、経皮的与薬・直腸内与薬	講義	
13		3. 注射の基礎知識	講義	

13	Ⅶ. 与薬の技術	4. 事故防止のための必須知識	講義	堀
14		5. 注射の基礎知識、輸液の計算	講義	
15		6. 与薬方法と効果の観察	講義・DVD	
16		7. 1G点滴・静脈内注射・採血、2G皮下注射 1G皮下注射、2G点滴・静脈内注射・採血	演習	堀 東
17				
18				
19				
20				
21				
22		8. 輸血の管理	講義	田中勝男
23	まとめ	まとめ	講義	東

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	評価なし	
担当教員	東 真由美 堀 由美子 隅 敦子 田中 勝男		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	基礎看護学実習Ⅰ（生活環境、コミュニケーション）			単位数	1	時間数	45
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	基礎看護学実習Ⅰでは、看護活動の場のひとつである病院を知り、対象の生活環境と対象を理解するための視点および看護の実践を学ぶ。生活環境は人間の健康の回復、保持、増進あるいは安寧な死へ大きく影響を及ぼす。ナイチンゲールは、看護の基本となる考えとして「対象の生命力の消耗を最小にするように整えること」と問うている。その手段のひとつとして「環境を整えること」が看護実践では重要であると考えられる。病床・病室は、対象が日常生活の大半を行う場であり、快適に過ごせるように整備する必要がある。学習者が実際の対象の環境を知り、環境を整える重要性を深く理解することは、対象の健康と生活を支える上で大きな意味を持つ。見学と実践をとおし、安全・安楽・自立の看護技術を追及する動機付けとしたい。実習では、コミュニケーション技術を用い、情報を得る。難しいと感じる場面は多いと予想される、しかし、その気付きから実習を振り返ることで、看護者としての接し方や態度が身に付く。看護学を学ぶ志向性が高められ、自己の課題を設定し、課題達成に向けて意欲的に学習に取り組むことが期待できる。						
一般目標	1. 看護活動の場である病院を知る。 2. 入院している患者の生活と環境を理解する。 3. 入院している患者に行われている看護の実践を知る。 4. 患者との関わりをとおしてコミュニケーションについて考える。 5. 保管医療福祉チームの一員としての看護職の役割を知る。 6. 看護師に必要な態度を養う。 7. 実習をとおして看護について考える。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
実習要綱参照					
技術(精神運動領域)					
実習要綱参照					
態度(情意領域)					
実習要綱参照					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	学内実習	基礎看護学実習オリエンテーション、技術練習	学内実習	7.5時間	
		技術練習(ベッドメイキング・環境整備)			
2	実習1日目:オリエンテーション	1. 病院・病棟の設備や機能の理解 病院組織、看護部や看護体制の理解	臨時実習	37.5時間	
3	実習2日目:同行・受け持ち実習	2. 入院している対象の生活と環境を理解 1)生活と環境の記述 2)環境調整の実施 3)生活環境を分析 3. 入院している対象に実践されている看護の理解			
4	実習3日目:同行・受け持ち実習 カンファレンス	1)日常生活援助技術 2)診療の補助 3)心理的支援 4)教育的支援 4. コミュニケーション技術の実践 1)話し方、聴き方、態度 2)場面の再構成 3)コミュニケーションの傾向の分析と明確化 5. 保健医療福祉チームとしての看護職の理解 1)看護師や他職種との報告・連絡・相談 2)家族との連絡 3)看護記録 6. 看護職に必要な態度の理解 7. 看護観			
5	実習4日目:学内実習	1. 技術練習(ベッドメイキング・包布・環境整備)			
6	実習5日目:同行・受け持ち実習	実習2・3日目に順ずる。	臨時実習		
7	実習6日目:同行・受け持ち実習				
担当教員		百合田 名奈美	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	基礎看護学実習Ⅱ（アセスメント実習）			単位数	2	時間数	90
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	基礎看護学実習Ⅰでは、入院している対象の生活環境と看護の実際を学んだ。看護過程Ⅰ・Ⅱの講義では、紙面対象をゴードンの枠組みを用いて整理し、健康上の課題を抽出し計画を立案する過程を体験している。基礎看護学実習Ⅱは、それらを統合し実際の対象のアセスメントを行う。対象の状態を観察し、ゴードンの枠組みを用いて全体像を捉える。対象に起こっている反応とその原因・誘因を理解し、対象の健康上の課題を明らかにする過程を体験する。合わせて、対象に必要な日常生活の援助技術を実施しながら、対象の理解を深める。また、対象との関わることで学習者が主体的に看護を考え、今後何を学び深めていく必要があるのかという自己の学習課題に気づくことも課題とする。						
一般目標	1. ゴードンの枠組みを用いて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から対象の情報を収集できる。 2. 対象の健康上の課題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。 3. 援助計画に基づいて日常生活援助が実施できる。 4. 対象との関わりをとおして、よい人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。 5. 継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。 6. 看護師に必要な態度を養う。 7. 実習をとおして自己の考えを表現できる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 実習要綱参照				
技術(精神運動領域) 実習要綱参照				
態度(情意領域) 実習要綱参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習	確認試験・技術練習	学内演習	3時間
2	実習1日目:オリエンテーション 同行実習	1. 病院・病棟の設備や機能の理解 2. 保健・医療・福祉チームの継続看護の視点から対象理解 3. ゴードンの枠組みを用いた意図的な情報を収集 1)コミュニケーション技術	臨地実習	15時間
3	実習2日目:同行実習			
4	実習3日目:学内実習		学内演習	6時間
5	実習4日目:アセスメント 日常生活援助	4.観察・測定技術を用いて正確な情報収集 1)フィジカルアセスメント技術の活用 2)コミュニケーション技術の活用 3)対象および家族の負担を考慮した情報収集 5. 援助計画に基づいた日常生活援助 1)実施前の観察と判断 2)安全・安楽・自立を考えた実施 3)実施中・終了時の対象の観察 4)実施後の継続的な観察 5)主観的・客観的情報による援助の目的達成状況 6)物品処理、管理 7)適切な時期・内容・方法での報告 6. アセスメント 1)正常値や期待される行動指標からの逸脱の有無と程度 2)複数の情報からの分析 3)恒常性・均衡 4)発達段階 5)健康障害・治療による反応、生活行動への影響と対処行動のアセスメント 6)看護上の問題を起こしうる因子の検索 7)症状の成り行き 7. 全体像と問題の優先順位 1)病態生理、症状、治療処置 2)心理・社会的背景 3)看護上の問題の関連性 4)理論を用いた優先順位 5)健康レベル・治療段階に応じた優先順位 6)対象の望む優先度	臨地実習	60時間
6	実習5日目:アセスメント 日常生活援助			
7	実習6日目:アセスメント 日常生活援助			
8	実習7日目:アセスメント 日常生活援助			
9	実習8日目:日常生活援助 全体像発表			
10	実習9日目:日常生活援助 全体像発表			
11	実習10日目:日常生活援助			
12	実習11日目:学びの会			
13	学内実習	看護計画立案・技術振り返り	演習	6時間
担当教員		百合田 名奈美	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学概論			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	生命の危機状態にある成人・家族、および手術を受ける成人・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復へむけた看護を学ぶ						
一般目標	1. 成人が、心身ともに成長・成熟し、社会的役割の担い手として生涯発達する過程を理解する。 2. 成人の健康について、生活の視点から多面的に包括的に捉え理解する。 3. 成人期にある人の特性を考慮し、よりよい健康状態を目指し支え促す看護の基本的アプローチについての考え方や方法論を理解する。 4. 成人期にある人のヘルスプロモーションと健康を増進するための支援を理解する。 5. 健康生活をおびやかす要因を知り、生活行動がもたらす健康問題と予防を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 成人が、心身ともに成長・成熟し、社会的役割の担い手として生涯発達する過程を説明する。 成人の健康について、生活の視点から多面的に包括的に捉え説明する。 成人期にある人の特性を考慮し、よりよい健康状態を目指し支え促す看護の基本的アプローチについての考え方や方法論を説明する。 成人期にある人のヘルスプロモーションと健康を増進するための支援の方法を説明する。 健康生活をおびやかす要因を知り、生活行動がもたらす健康問題と予防を説明する。				
態度(情意領域) グループワーク活動や課題に主体的に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 成人と生活	1. 対象の理解 2. 対象の生活	講義	
2		1. 生活とは 2. ワークライフバランス	講義	
3	II. 生活と健康	3. 生活から捉える健康	講義	
4		4. 生活と健康を守り育むシステム 5. 健康増進対策	講義	
5		1. 患者と看護師の人間関係 2. チームアプローチ 3. 看護の質の保証	講義	
6	III. 成人への看護アプローチの基本	4. 成人の健康レベルに対応した看護 5. 意思決定支援 6. 倫理判断	講義	
7		7. ヘルスプロモーション 8. 健康バランスを崩す要因	講義 GW	
8	IV. 成人の健康レベルに対応した看護	1. 健康生活の急激な破たんからの回復 2. 健康を急激に破たんした人の看護	講義	
9		3. 健康生活の慢性的揺らぎの再調整 4. 慢性的揺らぎとの共存	講義	

10	Ⅳ. 成人の健康レベルに対応した看護	5. 障害者の生活とリハビリテーション	講義	
		6. 障害を持って生活する		
11		7. 人生の最後の時を支える	講義	
		8. 終末期にある人の理解		
12	Ⅴ. 成人の看護技術	1. 学習者としての成人の看護技術	講義	
13		2. 治療過程の患者の看護技術	講義	
14		3. 症状マネジメントの看護技術	講義	
15		4. 退院支援の看護技術	講義	
		5. がんとの共生を促す看護技術		
		6. 先端医療と看護		

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート			○	20	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	堀 由美子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅰ（急性期・周手術期看護）			単位数	2	時間数	45
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		
授業概要	生命の危機状態にある成人・家族および手術を受ける成人・家族に対する生命維持、苦痛の緩和早期回復へ向けた看護を理解する						
一般目標	1. 急性期の概念と看護の役割・目的を理解する。 2. 急性期にある人の特徴を理解する。 3. 急性期の機能障害に応じた看護を理解する。 4. 周手術期看護の役割を理解する。 5. 手術侵襲による生体反応と回復促進への看護を理解する。 6. 代表的な術式と患者への看護を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 2呼吸器 3循環器 5消化器（医学書院）						
	系統看護学講座 成人看護学 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
急性期の概念と看護の役割・目的を説明する。 急性期にある人の特徴を説明する。 急性期の機能障害に応じた看護を説明する。 周手術期看護の役割を説明する。 手術侵襲による生体反応と回復促進への看護を説明する。 代表的な術式と患者への看護を説明する。				
態度(情意領域)				
グループワーク活動や課題に主体的に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 急性期にある人の特徴と看護の役割	1. 健康の急激な破綻	講義	
2		2. 急激な健康破綻をきたした人の看護	講義	
3	Ⅱ. 急性期にある人への看護援助	1. 循環機能障害のある患者の看護	講義	
4			講義	
5			講義	
6		2. 消化器機能障害のある患者の看護	講義	
7			講義	
8		3. 感覚器障害のある患者の看護	講義	
9		4. 呼吸器機能障害のある患者の看護	講義	
10			講義	
11	Ⅲ. 周手術期の看護	1. 周手術期看護の特徴と看護の特徴	講義	
12		2. 手術前の患者の看護	講義DVD	
13		3. 手術中の患者の看護	講義DVD	
14		4. 手術後の患者の看護	講義DVD	
15			講義DVD	
16	Ⅳ. 代表的な術式と看護	1. 開頭術(脳動脈瘤)	講義	
17		2. 開胸術(肺がん)	講義	
18		3. 開腹術(胃がん、直腸がん)、ストーマ造設	講義	
19		4. 乳がん	講義	
20		5. 頭頸部手術(喉頭がん)、気管切開	講義	
21	Ⅴ. ICU看護	1. 集中治療を受ける患者の看護	講義	

22	VI. 救急救命時の看護	1. 心肺停止状態への対応	講義
23		2. 急性中毒への対処、ショックへの対処 3. 外傷・骨折の応急対処	講義

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	両國 俊樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	健康障害からの回復過程にある成人やその家族に対する慢性化予防、生活行動の再獲得、社会復帰を目指した看護を学ぶ。						
一般目標	1. リハビリテーションの意味と看護師の役割について説明できる。 2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を説明できる。 3. 機能障害に応じたリハビリテーション看護を説明できる。 4. 理学療法・作業療法・言語療法の実際を知り回復期における具体的な看護技術を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 2呼吸器 3循環器 7脳・神経 10運動器 （医学書院）						
	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 （医学書院）						
	リハビリテーションビジュアルブック （学研）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) リハビリテーションの意味と看護師の役割について説明できる。 リハビリテーションを必要とする人の特徴を説明できる。 機能障害に応じたリハビリテーション看護を説明できる。 理学療法・作業療法・言語療法の実際を知り回復期における具体的な看護技術を説明できる。				
技術(精神運動領域) 機能回復のための支援を学生間で実施できる。(自助具を用いた歩行訓練) 機能障害のある人への支援を学生間で実施できる。(嚥下機能障害のある人の嚥下体操と嚥下食)				
態度(情意領域) 主体的に参加し、GWでの積極的な討議・意見交換ができる。 課題・提出物を確実に提出できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. リハビリテーションの定義と看護	1. リハビリテーションの定義と目標 1)リハビリテーションの定義と分野 2)経過別にみるリハビリテーション	講義	東
2		2. リハビリテーションにおける看護の主要概念 1)身体機能維持・回復を促す看護援助 2)セルフケアへの援助、家族の支援 3)他職種連携のあり方	講義	
3		3. リハビリテーションにおける倫理・法律・施策 1)障害者の定義と権利擁護 2)社会資源の活用	講義	
4	Ⅱ. 生活の再構築への援助	1. 障害をもちながら生活する人々を支援する看護 1)生活の再構成の目標と看護の方向性 2)生活の再構成のための支援 3)肯定的自己概念・障害受容	講義 GW	
5	Ⅲ. 機能障害に応じたリハビリテーション看護	1. 運動機能障害のある人の看護 1)骨折 2)関節リウマチ 3)脊髄損傷	講義	東
6			講義 DVD	

7	Ⅲ. 機能障害に応じたリハビリテーション看護	2. 脳神経機能障害のある人の看護 1)脳血管疾患(脳梗塞) 2)運動機能障害、摂食・嚥下障害 3)構音障害、失語 4)高次脳機能障害(失認、失行、失読、記憶障害)	講義	東
8			講義	
9		3. 呼吸機能障害のある人の看護 1)呼吸器リハビリテーション	講義	
10		4. 感覚機能障害のある人の看護 1)視力障害のある人の看護	講義	
11	Ⅳ. リハビリテーション看護における理学療法、作業療法、言語療法	1. 理学療法 1)関節可動域測定・訓練 2)徒手筋力検査・筋力増強訓練 3)日常生活動作 4)呼吸理学療法	講義	島本
12			演習	
13		2. 作業療法 1)片麻痺における日常生活訓練と介助法 2)脊髄損傷時の日常生活動作訓練と介助法	講義	濱本
14		3. 言語療法・嚥下ケア 1)摂食・嚥下障害	講義 演習	正司
15		2)コミュニケーション障害	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準
定期試験	○				100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					評価なし	
課題レポート					評価なし	
授業態度					評価なし	
演習(GW・技術等)					評価なし	
担当教員	東 真由美 島本 祐嗣 濱本 尊博 正司 真規		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	成人看護学方法論Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	慢性の経過をたどる成人・家族への症状看護、およびセルフケアへの看護、再発予防のための看護を学ぶ。						
一般目標	1. 慢性期の概念と看護師の役割を説明できる。 2. 慢性期にある人の特徴を説明できる。 3. 慢性期にある人の健康の維持・増進のためのセルフケアを支援する看護を説明できる。 4. 慢性期にある人への症状マネジメントのためのアプローチを説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 5消化器 6内分泌・代謝 8腎・泌尿器 11アレルギー・膠原病・感染（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
慢性期の概念と看護師の役割を説明できる。 慢性期にある人の特徴を説明できる。 慢性期にある人の健康の維持・増進のためのセルフケアを支援する看護について説明できる。 慢性期にある人への症状マネジメントのためのアプローチの仕方を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
慢性期にある人の健康の維持・増進のための支持的支援を模倣できる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、グループワークでの積極的な討議・意見交換ができる。 課題・提出物を確実に提出できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 慢性期にある人の特徴と看護の役割	1. 慢性期にある人の心理・社会的特徴 1)慢性疾患の特徴・病みの軌跡 2)疾患受容と自己管理への支援 3)エンパワーメント・エデュケーション	講義	
2		2. 慢性疾患患者のセルフケアとQOL 1)コンプライアンスとアドヒアランス 2)成人教育学(アンドラゴジー) 3)社会資源の活用、特定疾患研究事業 4)家族介護者への支援	講義	
3	Ⅱ. 機能障害に応じた慢性期看護	1. 代謝機能障害・肝機能障害をもつ患者の看護 1)糖尿病 (1)血糖値とインスリン分泌能の評価 (2)インクレチン関連薬による治療	講義	
4		(3)食事療法・薬物療法・運動療法への看護 (4)合併症予防とシックデイの対応	講義	
5		2)脂質・尿酸代謝障害 (1)脂質異常症・肥満症 (2)メタボリックシンドローム (3)尿酸代謝異常患者の看護	講義	
6		3)肝炎・肝硬変 (1)肝生検時の看護 (2)インターフェロン療法時の看護	講義	
7		(3)食道静脈瘤硬化療法時の看護	講義	

		(4)肝性脳症予防と生活指導	講義	
8	Ⅱ. 機能障害に応じた慢性 期看護	2. 内部環境調節障害のある患者の看護 1)慢性腎不全 (1)透析療法導入・維持への看護	講義 課題	
9		(2)血液透析・腹膜透析の管理 (3)慢性腎不全の病期に応じた生活指導	講義 課題	
10		2)甲状腺機能異常 (1)甲状腺機能検査	講義	
11		(2)ホルモン療法時の看護 (3)甲状腺切除術をうける患者の看護	講義	
12		3. 生体機能防御障害のある患者の看護 1)アレルギー疾患患者の看護 (1)成人喘息	講義	
13		2)膠原病(全身性エリテマトーデス)の看護 (1)ステロイド療法	講義	
14		3)HIV感染者・AIDS患者の看護	講義	
15		4. 感覚機能障害のある患者の看護 1)視覚・平衡覚疾患患者の看護 (1)メニエール病 (2)突発性難聴	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○	○	10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	東 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅳ			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	緩和ケアの対象となる成人とその家族の特徴と全人的苦痛の緩和のための看護を学ぶ。がん看護の実際と終末期の看護の実際について学ぶ。						
一般目標	1. 緩和ケアの対象である成人とその家族の特徴を理解する。 2. 緩和ケアの実際と看護師の役割を理解する。 3. 終末期・臨死期にある人とその家族の看護について理解する。 4. がん治療(放射線治療・化学療法)を受ける成人の看護を理解する。 5. 血液・造血器障害、女性生殖器障害のある成人の健康問題に対する看護を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 4血液・造血器 9女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 緩和ケアの対象である成人とその家族の特徴を説明できる。 緩和ケアの実際を知り、看護師の役割を述べることができる。 終末期にある成人とその家族の持つ力を支える看護について自分の考えを述べることができる。 終末期・臨死期にある人とその家族の看護について説明できる。 がん治療(放射線治療・化学療法)を受ける成人の看護について説明できる。 血液・造血器障害、女性生殖器障害のある成人の健康問題に対する看護を説明できる。				
態度(情意領域) 主体的に学習に参加できる GWでの積極的な討議・意見交換ができる。 課題を確実に実践できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 緩和ケアの理念	1. 緩和ケアの理念 全人的苦痛と全人的ケア	講義 GW	光永
2	II. 緩和ケアを必要とする人への看護の実際	2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3. 全人的ケアの実践 疾患における広がり地域連携の実際	講義	
3	III. 終末期にある人とその家族の持つ力を支える看護	1. 生命倫理と看護倫理 意思決定支援(治療の選択、療養の場の選択)	講義	金子
4		2. 予期悲嘆へのケア 3. 終末期をむかえる人の看護 疼痛マネジメント 苦痛緩和のための鎮静とケア	講義	東
5	IV. がん治療を受ける人の看護	1. 放射線治療を受ける人の看護 2. 化学療法を受ける人の看護 1)化学療法を受ける人の看護の実際 3. がんリハビリテーションを受ける人の看護 1)がんリハビリテーションの支援	講義	鹿毛
6	V. 血液・造血器障害のある人への看護	1. 白血病患者の看護 1) 急性・慢性骨髄性白血病の理解 2) 検査・治療時の看護	講義	田中
7		2. 造血幹細胞移植をうける患者の看護	講義	
8	VI. 女性生殖器の障害をもつ患者の看護	1. 観察とアセスメント 1)女性生殖器の機能と症状 2)検査時の看護 2. 女性生殖器に障害のある患者の看護 1)子宮がん、卵巣がん患者の看護 2)子宮・卵巣摘出の看護 3)乳がん患者の看護	講義	吉本

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	東 真由美 吉本 美恵 光永 祐子 金子 美幸 鹿毛 沙智 田中 勝男		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学演習			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	成人期の健康障害を持つ対象を全人的に捉え必要な看護を行うための看護技術を学ぶ。						
一般目標	1. 慢性期にある成人に看護過程を展開できる。 2. 成人看護に必要な看護技術を実施できる。 3. 手術を受ける人の術前・術後における看護技術を実施できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 5消化器 6内分泌・代謝 10運動器」(医学書院)						
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)						
	写真でわかる 臨床看護技術② (インターメディカ)						
	よくわかる周手術期看護 (学研)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
急性期にある患者の看護上の問題とその原因・誘因を捉え、看護上の問題の明確化、看護介入を理解する事ができる。 回復期にある成人について疾患特徴と個人の背景を関連関連づけて考え、アセスメント、看護計画、援助計画を記述できる。 慢性期にある成人の健康維持のための教育について説明できる。 糖尿病患者のインスリン導入時の指導案が記述できる。				
技術(精神運動領域)				
周手術期、人工肛門造設患者の事例をととして、対象に応じた看護を展開する技術を習得できる。 救急蘇生法(BLS)の技術を習得できる。 回復期にある患者の生活行動の再獲得のための看護技術を実施できる。 慢性期にある患者の生活指導を指導案を用いて模擬患者に実施できる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、GWでの積極的な討議・意見交換ができる。 課題・提出物を確実に提出できる。 対象理解の為、周囲と協力しながら積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 回復期看護過程	1. 事例: 脊髄損傷患者の看護 1) 看護計画の立案	講義 GW	堀
2		2) 二次障害予防とADLの自立にむけた援助の検討	GW	
3		2. 事例の特性に応じた技術演習 1) 二次障害予防とADLの自立のための援助	演習	
4	Ⅱ. 慢性期看護過程	1. 事例: 糖尿病をもつ患者の看護 1) インスリン療法導入時の看護	講義 GW	
5		2. 事例の特性に応じた技術演習 1) インスリン療法導入時の看護 (1) 生活改善計画と指導(低血糖・高血糖への対応)	GW 演習	
6		(2) インスリン自己注射の方法の指導 2) フットケアの指導案作成	演習・課題	
7	Ⅲ. 周手術期看護	1. 事例: 大腸がんで人工肛門造設を受ける患者 1) ストーマサイトマーキング・パウチ装着	講義・演習	両国
8		2) パウチ内の排泄物処理方法、パウチ交換手順	講義・演習	
9		3) 必要な支援、地域サービスの検討	GW	
10	Ⅳ. 急性期看護過程	1. 一次救命処置	講義・演習	両国

11	Ⅳ．心臓病の救急処置	1)人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用法	講義	両国
12	Ⅴ．術後合併症予防のための看護技術	1. 術前オリエンテーション(呼吸法、弾性ストッキング)	講義	
13		2. 体位ドレナージ、排痰法	GW	
14		3. 創傷の管理・観察・胸腔ドレナージ	演習	
15		4. 意識レベルの把握		
		5. 術後のフィジカルアセスメント		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			90	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	堀 由美子 両国 俊樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学実習Ⅰ（看護過程）			単位数	2	時間数	90
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	対象を理解し、健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ。						
一般目標	1. 受け持ち患者の情報を収集できる。 2. 看護上の問題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。 3. 看護計画を立案できる。 4. 看護計画に基づいて、日常生活援助が実施できる。 5. 患者の反応をもとに目標達成度を判断し、看護上の問題の評価ができる。 6. 看護師に必要な基本的態度を養う。 7. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。 8. 看護についての自己の考えを表現できる。						
知識(認知領域)							
実習要綱参照							
技術(精神運動領域)							
実習要綱参照							
態度(情意領域)							
実習要綱参照							
回数	授業項目		授業内容			授業方法	備考
1	全体オリエンテーション		1. 成人看護学実習概要 2. 事前課題の提示 3. 各施設の概要			学内実習	1.5時間
2	実習1日目:オリエンテーション		1. 施設概要、患者紹介、情報収集			臨地実習	30.0時間
3	実習2日目:日常生活援助 情報収集 アセスメント		1. 受け持ち患者の情報収集ができる 1)意図的な情報収集ができる 2)コミュニケーション技術を活用した情報収集できる 3)観察・測定技術を用いて正確な情報収集ができる 2. 看護上の問題とその原因誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる 1)情報を分析・統合し、問題を導き出す過程を表現できる 2)関連因子・危険因子をなりうる情報を挙げ、その解釈と看護上の問題への関連性を記述できる 3)看護上の問題を決定し記述できる 4)全体像を記載できる				
4	実習3日目:日常生活援助 情報収集 アセスメント						
5	実習4日目:日常生活援助 情報収集 アセスメント						
6	実習5日目:学内実習日		技術練習・看護計画の修正			学内実習	6.0時間
7	実習6日目:日常生活援助 情報収集 アセスメント		3. 看護計画を立案できる 1)患者に期待する結果を想定し、目標の設定ができる 2)看護介入の方法を決定し、表現できる 3)援助計画の立案ができる 4. 看護計画に基づいて、日常生活援助ができる 1)計画に基づきながら、患者の状況に応じた援助が実施できる 2)実施後の患者の観察、片付け、報告ができる 3)患者の状況に応じた環境調整への行動ができる 5. 患者の反応をもとに目標達成度を判断し、看護上の問題の評価ができる 1)経過記録の記載ができる 2)問題の経過および目標達成度を判断し、看護過程の全段階の評価を記載できる 6.看護に必要な規法的態度を養う 1)相手を尊重した態度・言葉使いができる 2)報告・連絡・相談ができる 3)自己の課題を明らかにし、解決に向けた学習ができる 4)学生間で協力して学習できる			臨地実習	52.5時間
8	実習7日目:日常生活援助 初期計画検討会						
9	実習8日目:看護過程の展開						
10	実習9日目:看護過程の展開						
11	実習10日目:看護過程の 展開						

12	実習11日目:看護過程の展開 看護計画の評価	7. 保健医療チームの一員としての看護師の役割を学ぶ 1)他社との連絡・調整の実際と、その意義について述べられる 2)医療事故防止のための看護師の役割について述べられる 8. 看護についての自己の考え方を表現できる 1)実習での学び、自己の課題を表現できる 2)看護について考えを表現できる	臨地実習	52.5時間	
13	実習12日目:看護過程の展開 学びの会				
担当教員		堀 由美子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学実習Ⅱ（回復・慢性期）			単位数	2	時間数	90
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	回復および慢性期にある成人期の対象を統合的に理解し、その特徴を踏まえ看護が実践できる基礎的能力を養う。						
一般目標	1. 回復・慢性期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解し、健康上の課題が判断できる。 2. 回復・慢性期にある対象の自立・セルフケア行動を高める看護を実践する。 3. 回復・慢性期にある対象の多様な価値観を認め、倫理的判断に基づく態度を身に付ける。 4. 継続看護の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 5. 回復・慢性期実習をとらえて看護観を深める。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要綱参照				
技術(精神運動領域)				
実習要綱参照				
態度(情意領域)				
実習要綱参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習	事前確認試験・技術確認(ストレッチャー移乗・移送、排泄介助)	学内実習	4.5時間
2	実習1日目:オリエンテーション	施設概要・患者紹介・情報収集	臨地実習	82.5時間
3	実習2日目:情報収集 全身状態の観察	1. 回復期・慢性期にある成人期の対象の統合的理解と健康上の課題の判断 1)回復期・慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的側面の理解 2)全人的理解 3)健康上の課題の抽出 2. 自立・セルフケア行動を高める看護過程の展開 1)回復期・慢性期にある対象の回復段階に応じた計画 2)対象のセルフケア行動を高め、QOLの維持・向上のための援助 3)二次障害予防・合併症予防のための援助 4)社会復帰・退院支援に向けてのニーズの把握と個人指導 5)実践した看護の評価と修正 3. 回復期・慢性期にある対象の多様な価値観の尊重と倫理的判断に基づく態度 1)看護倫理に基づいた態度(自己決定支援、権利擁護、個人情報の保護) 2)よりよい人間関係を形成するためのコミュニケーション技術 4. 継続看護の必要性、保険・医療・福祉チームの一員としての看護の役割 1)継続看護 2)他職種の役割りと連携 5. 看護観		
4	実習3日目:情報収集 カンファレンス①			
5	実習4日目:日常生活援助 初期計画検討会			
6	実習5日目:看護過程の展開			
7	実習6日目:看護過程の展開 カンファレンス②			
8	実習7日目:看護過程の展開			
9	実習8日目:看護過程の展開			
10	実習9日目:看護過程の展開 カンファレンス③			
11	実習10日目:看護過程の展開 看護計画の評価			
12	実習11日目:看護過程の展開・学びの会			
13	学内実習	事後確認試験・技術演習	学内実習	3時間
担当教員		堀 由美子	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学実習Ⅲ（急性期）			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	急性期にある対象に応じた看護を学習する。急性期とは、健康状態の急激な変化があり、生体がその変化に対応するためにさまざまな反応を起こしている時期である。看護にあつては、身体の内部がどうなっているかを理解し、悪化を防ぐとともに回復を促進するための援助を要する。健康問題が心理的側面や社会的側面に及ぼす影響を総合的に理解しながら、生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた看護を個別性に応じて展開できる。						
一般目標	1. 急性期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 急性期にある対象の生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた看護を実践する。 3. 手術療法を必要とする対象への看護を理解する。 4. 倫理的判断に基づいた態度で看護を実践する。 5. 健康回復に向けて看護の継続性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 6. 急性期看護の実習を通して看護観を深める。						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） 実習要綱参照				
技術（精神運動領域） 実習要綱参照				
態度（情意領域） 実習要綱参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習：事前確認試験 技術練習	事前確認試験・技術確認（前かがみ洗髪、寝衣交換）	学内実習	4.5時間
2	実習1日目：オリエンテーション 情報収集	1. 急性期にある対象を統合的に理解する。 1) 身体的・精神的・社会的側面の理解 2) 全体像の把握 3) 健康上の課題の判断 2. 生命の維持、症状悪化、回復促進に向けた看護の実践 1) 計画立案、計画に基づいた援助の実施 2) 合併症の予測、予防のための援助の実施 3) ニーズを把握し、退院後の生活に向けた援助の実施 4) 実践した看護の評価 3. 手術療法を必要とする対象への看護の理解 1) 術前、術中、術後の看護について理解する 4. 倫理的態度 1) 倫理的判断 2) 自己のコミュニケーションの分析 5. 保険、医療、福祉チームの役割の理解 1) 他職種との役割と連携 6. 看護観	臨地実習	82.5時間
3	実習2日目：情報収集 全身状態の観察			
4	実習3日目：情報収集 日常生活援助 カンファレンス			
5	実習4日目：日常生活援助 初期計画検討 会			
6	実習5日目：看護過程の展開			
7	実習6日目：看護過程の展開			
8	実習7日目：看護過程の展開			
9	実習8日目：看護過程の展開			
10	実習9日目：看護過程の展開			
11	実習10日目：看護過程の 展開			
12	実習11日目：看護過程の 展開 学びの会			
13	学内実習：事後確認試験 技術練習	事後確認試験・技術演習	学内実習	3時間
担当教員		両國 俊樹	実務経験紹介	有
		http://www.yic.ac.jp/nw/		

科目名	老年看護学概論			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	高齢者を理解するため高齢者に関する統計的特徴、加齢に伴う変化、また高齢者をとりまく社会、高齢者看護の基本、高齢者の日常生活の実際について講義する。						
一般目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 高齢者をとりまく社会を理解できる。 3. 長期療養施設の特徴について理解できる。 4. 高齢者看護の基本が理解できる。 5. 高齢者の生活を支える看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 高齢者をとりまく社会を理解できる。 長期療養施設の特徴について理解できる。 高齢者看護の基本が理解できる。 高齢者の生活を支える看護が理解できる。 高齢者へのインタビュー(生活史)・高齢者疑似体験を通して、自己の考えを述べることができる。				
技術(精神運動領域)				
加齢に伴う変化の関連図を書くことができる。				
態度(情意領域)				
主体的に課題に取り組むことができる。 GWに参加し協力できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 高齢者の理解	1. 身近な高齢者のイメージ	講義	高杉
		2. ライフサイクルからみた高齢者の理解 老年期の定義		
		超高齢社会の統計、高齢者と家族・健康状態・暮らし		
2		4. 「高齢者になってみよう」高齢者疑似体験	演習	
3		5. 加齢に伴う変化(身体機能の生理的変化)	GW	
		6. 加齢に伴う変化(心理・精神機能の変化)		
4		7. 加齢に伴う変化(身体機能の生理的変化)	GW 発表	
		8. 加齢に伴う変化(心理・精神機能の変化)		
5		9. 加齢に伴う変化(身体機能、心理・精神機能、社会的機能の変化)	講義	
6		10. 高齢者の暮らし	講義	
7	Ⅱ. 高齢者をとりまく社会	1. 高齢者の関わる保健医療福祉システムの構築	講義	高杉
8		2. 高齢者の高齢者の対するスティグマと差別、権利擁護のための制度	講義	
		3. 高齢者を支える制度		

9	Ⅱ. 高齢者をとりまく社会	4. 介護保険制度	講義	高杉
		5. 高齢者医療の仕組み		
		6. 高齢者を支える多職種連携と看護活動		
10	Ⅲ. 生活・療養の場における看護	1. ヘルスプロモーションと地域密着ケア	講義	
		2. 介護保険施設		
		3. 地域密着ケア		
11	Ⅳ. 高齢者看護の基本	1. 高齢者看護の特性、役割	講義	
		2. 高齢者看護に関わる諸理論		
		3. 高齢者看護における倫理		
		4. 高齢者に対するヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント		
12	Ⅴ. 身体の高齢性変化とアセスメント	1. 基本動作と環境のアセスメント	講義	
2. 皮膚・感覚器(バイタルサインの特徴含む)のアセスメント				
13		3. 呼吸器(バイタルサインの特徴含む)のアセスメント	講義	
14		4. 循環器(バイタルサインの特徴含む)のアセスメント	講義	
15		5. ホルモン、泌尿器・生殖器のアセスメント	講義	
		6. 運動器のアセスメント		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	高杉 あすか		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学方法論Ⅰ（健康レベルに応じた看護）			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	高齢者に起こりがちな身体症状や疾患・障害を持つ高齢者に対しての看護、高齢者と家族を含めた終末期の看護について講義する。						
一般目標	1. 高齢者に多い症状のアセスメントの視点とセルフケア支援について理解できる。 2. 高齢者の健康障害の特徴を理解できる。 3. 高齢者にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護を理解できる。 4. 終末期にある高齢者と家族の看護が理解できる。						
テキスト 参考書 等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標（行動目標）

知識(認知領域)				
高齢者に多い症状のアセスメントの視点とセルフケア支援について理解できる。 高齢者の健康障害の特徴を理解できる。 高齢者にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護を理解できる。 終末期にある高齢者と家族の看護が理解できる。				
技術(精神運動領域)				
高齢者に多い疾患の病態関連図を作成する。				
態度(情意領域)				
主体的に課題に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	高齢者とのコミュニケーション	1.高齢者とのコミュニケーションの特徴、留意点	講義	礎部
2	Ⅰ．高齢者の生活機能を支える看護	1. 感覚機能に対する看護 1)視覚・聴覚の障害	講義	
		2. 食生活を支える看護 1)脱水 2)摂食嚥下障害 3)低栄養		
3		3. 排泄を支える看護 1)尿失禁 2)便秘・下痢 3)前立腺肥大症 4)ノロウイルス	講義	
			講義	
4		4. 清潔・衣生活 1)掻痒 2)痛み・しびれ 3)浮腫 4)老人性皮膚掻痒症 5)疥癬	講義	
5		5.生活リズムを整える看護 1)睡眠障害 2)生活リズムを整えるための援助	講義	
		6. 歩行・移動を支える看護 1)廃用症候群・老年症候群 (廃用症候群の背景と特徴・廃用症候群予防のためのアセスメント 廃用症候群予防のための看護と評価)	講義	
6		2)骨粗鬆症 (骨粗鬆症の背景と特徴・アセスメント・援助と評価)	講義	
		3)転倒・骨折		
		4)骨折の特徴と看護 (圧迫骨折、大腿骨頸部骨折)		

7	Ⅱ. 高齢者に多い症状、疾患、障害と看護	1. パーキンソン病 1)疾患の背景と特徴 2)パーキンソン病のアセスメント 3)パーキンソン病の看護と評価 4)転倒予防看護 (高齢者の転倒の影響・転倒発生の要因・転倒予防)	講義	磯部
8		2. 心不全、脳梗塞、脳出血、COPD、誤嚥性肺炎の病態関連図 加齢性変化を考慮した疾患の病態関連図を書く	グループワーク	
9		グループ演習	グループワーク	
10		グループ発表		
11		3. 心不全、脳梗塞、脳出血、COPD、誤嚥性肺炎の病態と看護	講義	
12	Ⅲ. 治療を必要とする高齢者の看護	1.検査、薬部治療法を受ける高齢者の看護	講義	
13		2.手術を受ける高齢者の看護 3.入院治療、リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
14	Ⅳ. 終末期にある高齢者と家族の看護	1. 高齢者の死と医療・ケア、尊厳死と延命治療	講義	
15		2. 終末期看護の実践		
		3. 看取りを終えた家族への看護 4. 看取りを終えたスタッフへのケア		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○	○	20	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	磯部 純子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学方法論Ⅱ（要介護高齢者の看護）			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	患者数の増加が見込まれ、国全体の課題となっている認知症について学習する。認知症の看護は、人の尊厳や倫理的課題、本人が意思を十分に伝えられないときのコミュニケーション方法や情報の把握、自己決定などを高齢者看護の本質的な課題をたくさん含んでいる。ここでは、認知症ケアの歴史や認知症の原因疾患・治療方法などを理解し、そのうえで、認知症高齢者が安心してその人らしく生活するための支援方法・権利擁護・サポートシステム、について講義する。 また、ICFモデルを用いた対象理解の方法を学び、看護の在り方を事例を通して学ぶ。						
一般目標	1. 認知症の原因疾患と特徴を理解する。 2. 認知症高齢者へのケアと薬物療法を理解する。 3. 認知症高齢者と家族への支援体制を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
認知症の原因疾患と特徴を説明できる。 認知症高齢者へのケアと薬物療法を説明できる。 認知症高齢者と家族への支援体制を説明できる。					
技術(精神運動領域)					
ICFモデルを活用して、認知症高齢者の全体像作成、焦点アセスメントをする。 認知症高齢者や家族、ケア提供者それぞれの心理を考え、より良いかわりを追究したロールプレイを発表する。					
態度(情意領域)					
認知症ケアについて関心を示し、主体的に演習に取り組む。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	I. 認知症の概念	1. 認知症の定義 2. 認知症の認知症高齢者の理解、認知症の分類	講義	高杉	
2	II. 認知症の病態と要因	1. 認知症の病態 2. 認知症の原因疾患 3. 認知症の記憶低下と物忘れの違い	講義		
3		4. 認知症の中核症状、BPSD 5. 認知症とせん妄・うつの違い 6. 症状に応じたケア	講義		
4		III. 認知機能の評価方法	1. 観察式(FAST・CDR・認知症高齢者の日常生活自立度) 2. 質問式(HDS-R・MMSE) 3. 認知症の診断		講義
5		IV. 認知症の予防と治療	1. 認知症予防・治療		講義
6	V. 認知症の療法的アプローチ	1. 認知症ケアの基本的な考え方 (パーソンセンタードケア・ユマニチュード)	講義		
7		2. コミュニケーションの基本(バリデーション技法含む) 3. 現実見当識訓練(24時間RO/定型RO) 4. 音楽療法、回想法、アニマルセラピー。園芸療法、アロマセラピー	講義		
8		VI. 認知症高齢者を取り巻く環境と環境調整 VII. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム	1. 認知症の症状と環境の関係 2. 認知症高齢者への環境支援のための指針 1. 認知症高齢者と家族とのコミュニケーションの発展過程 2. 認知症高齢者の家族とサポートシステム、制度、オレンジプラン		講義
		1. 高齢者の権利擁護(アドボカシー)、虐待			

9	VIII. 認知症高齢者の人権と権利擁護	2. 高齢者虐待と身体拘束	講義	高杉
		3. 高齢者虐待と身体拘束		
10	IX. 認知症高齢者の事例展開	1. ICFの考え方、他職種協働	個人演習	
11		2. 認知症高齢者の事例展開		
12		(ICF全体像、焦点アセスメント)		
13	X. BPSD時の対応と看護	1. ロールプレイ準備(バリデーション再構成)	GW演習	
14				
15		2. ロールプレイ発表		

成績評価方法

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)		態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準 秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 修得 ()内はGP点数
定期試験	○				80	
小テスト					評価なし	
課題レポート					評価なし	
授業態度					評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○		○	20	
担当教員	高杉 あすか		実務経験紹介		有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学演習			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	老年看護学概論や方法論Ⅰ・Ⅱの学びをふまえながら、高齢者にとってのリハビリテーションの意義を考え、事例を用いて援助方法を考える。また、高齢者看護で提供すること多い、褥瘡処置、心地よいケアなど高齢者の安全・安楽を考慮した看護技術を演習する						
一般目標	1. 高齢者のリハビリテーションの意義を考え、効果的なレクリエーションを考える。 2. 老年看護に必要な看護技術を実施する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
高齢者にとってのリハビリテーションの意義・目的を説明できる。 高齢者の褥瘡、スキンケアの原因、予防、ケアについて説明できる。				
技術(精神運動領域)				
高齢者のリハビリテーションを考慮したレクリエーションを実施する。 高齢者の皮膚の特徴をふまえハンドマッサージを実施する。 褥瘡ケア(予防・処置)を実施する。				
態度(情意領域)				
主体的に演習に取り組み、チームで協力する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ．高齢者のリハビリテーション	1. 高齢者のリハビリテーションの特徴	講義	
2		2.高齢者のリハビリテーションを考えたレクリエーション 準備		
3				
4		3.発表		
5	Ⅱ．褥瘡ケア	1. 褥瘡・スキンケアとは	講義	
		2. 褥瘡発生のリスクアセスメント		
		3. 褥瘡の予防と管理		
		4. 褥瘡の分類		
		5. 治療・スキンケア		
6	Ⅲ．高齢者に用いることの多い技術演習	1. 褥瘡処置、心地よいケア	講義 演習	
		2.グループ演習準備		
7		3. ハンドマッサージ	演習	
		4. シャボンラッピング、手浴・足浴		
8			5. 褥瘡処置(創部洗浄・褥瘡評価)	演習

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未 修得 ()内はGP点数
小テスト	○			評価なし	
課題レポート	○			20	
授業態度	○	○	○	20	
演習(GW・技術等)	○	○	○	60	
担当教員	磯部 純子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学実習Ⅰ（健康障害のある高齢者の看護）			単位数	2	時間数	90
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	老年看護学実習Ⅰでは、健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。看護の対象として接する機会の多い高齢者を対象に、実習を展開し、基本的な看護過程の強化を図りたい。その過程を踏みながら実際の生活場面から高齢者を統合的に理解し、受け持ち患者をとおして、高齢者の健康課題を捉え、生活機能・生活の質の向上を考えた看護について学ばせたい。また、老年期に関わる保健・医療・福祉の連携を理解することで、チームアプローチの重要性、看護師の役割を学ばせたい。						
一般目標	1. 健康障害を持つ高齢者の身体的・精神的・社会的側面を把握し、生活者として高齢者を統合的に理解する。 2. 高齢者の個別性を捉えた看護過程を展開する。 3. 高齢者・家族とのコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築く。 4. 健康維持増進をめざした継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。 5. 老年看護学実習をとおして老年観、看護観を深める。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習	1. 確認試験・技術確認(おむつ交換・陰部洗浄)	学内実習	4.5時間
2	実習1日目:オリエンテーション	1. 病棟概要・患者紹介・情報収集	臨地実習	82.5時間
3	実習2日目:情報収集 カンファレンス①	1. 健康障害のある高齢者を生活者として統合的理解 1)老化と健康障害に伴う身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的状況 2)全人的理解 3)健康課題を見つける視点		
4	実習3日目:情報収集 日常生活援助			
5	実習4日目:看護過程の展開 カンファレンス②	2. 健康障害のある高齢者に応じた看護過程の展開 1)機能低下や合併症予防援助 2)ケアの継続性を考慮した援助 3)その人らしく主体的に生活できるような援助		
6	実習5日目:初期計画検討会			
7	実習6日目:看護過程の展開	3. 高齢者の多様な価値観の理解・倫理的判断に基づいた態度 1)コミュニケーション能力・環境の観察・査定 2)表現や伝達の工夫(バリデーション技術) 3)その人らしい生き方(人生観・死生観) 4)看護倫理に基づいた態度(自己決定支援、意思の尊重、権利擁護)		
8	実習7日目:看護過程の展開			
9	実習8日目:看護過程の展開 カンファレンス③	4. 継続看護の必要性、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割 1)継続看護 2)協働する中での看護の役割		
10	実習9日目:看護過程の展開			
11	実習10日目:看護過程の展開	5. 老年観・看護観・倫理観		
12	実習11日目:学びの会			
13	学内実習	1. テーマカンファレンス・確認試験・技術演習	学内実習	3時間
担当教員		磯部 純子	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学実習Ⅱ（要介護高齢者の看護）			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	老年看護学実習Ⅱでは、老人保健施設で生活する高齢者を統合体として理解し、生活の質を考慮した健康援助を学ぶことをねらいとする。ここでは、老年演習で学んだICFモデルを活用する。ICFモデルでは、疾患や障害を持っているありのままの人を、その人の生活機能に視点を当て、他職種と協働する中での高齢者ケアを考えることができる。施設で生活する高齢者と高齢者に行われている他職種との協働によるケアを理解し、高齢者の生活機能の維持・向上に向けたケアの実際を学ばせたい。また、高齢社会日本の抱える課題として、要介護高齢者の増加、認知症高齢者の増加があげられる。看護基礎教育の中でも要介護高齢者・認知症高齢者の学習強化が必要であり、老人保健施設へ入所されている要介護者をとおして学習できると考える。そして、高齢者施策の柱となる介護保険制度についても、施設サービスの実際を学びながら、関係法令・社会福祉制度の学習へとつなげていきたい。本実習では、老人保健施設で生活する要介護高齢者を統合的に理解し、生活の質を考慮した健康援助を学ぶ。						
一般目標	1. 要介護状態にある高齢者の生活機能をアセスメントし、生活者としての高齢者を統合的に理解する。 2. 要介護高齢者の生活機能に応じた看護を計画・実践・評価できる基礎的能力を養う。 3. 施設で生活する高齢者の生きてきた歴史と多様な価値観を尊重し倫理的判断に基づいた態度を身につける。 4. 高齢者ケアの場における保健・医療・福祉チームとの連携や協働の必要性を理解する。 5. 老年看護学実習をとおして、今後の老年看護の課題を考え、自己の老年看護観を深める。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習	1. 確認試験・技術確認(褥瘡処置・義歯装着時の口腔ケア)	学内実習	4.5時間
2	実習1日目:オリエンテーション	1. 施設概要・介護老人保健施設の役割・利用者の生活理解	臨地実習	82.5時間
3	実習2日目:生活支援 カンファレンス①	1. 生活機能から見た対象理解 1)心身機能・身体構造 2)活動 3)参加 4)環境因子 5)個人因子		
4	実習3日目:情報収集 生活支援	2. 要介護高齢者の生活機能に応じた看護過程の展開 1)生活機能の維持・向上に向けた視点 2)高齢者の特性を考えた援助の工夫		
5	実習4日目:情報収集 生活支援			
6	実習5日目:初期計画検討会	3. 高齢者の多様な価値観の理解・倫理的判断に基づいた態度 1)コミュニケーション能力・環境の観察・査定 2)表現や伝達の工夫(バリテーション技術) 3)その人らしい生き方(人生観・死生観) 4)権利擁護		
7	実習9日目:看護過程の展開 カンファレンス②			
8	実習7日目:看護過程の展開			
9	実習8日目:ショートステイ			
10	実習9日目:看護過程の展開 カンファレンス③	4. 他職種との連携や協働の理解 1)介護保険制度・職種間、関連施設との連携 2)協働する中での看護の役割		
11	実習10日目:看護過程の 展開	5. 老年観・看護観・倫理観		
12	実習11日目:学びの会			
13	学内実習	1. テーマカンファレンス・確認試験・技術演習	学内実習	3時間
担当教員		高杉 あすか	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学概論			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	学習者にとって、唯一、経験している学である小児看護学をとおして今までの成長を振り返りながら、小児の成長・発達の原則、小児各期の特徴を講義する。小児と家族を取り巻く社会の変化を理解し、小児が抱える課題に着目して看護の果たす役割を理解する。履修終了後に控えている保育園実習に向けて、定型の健康な小児の成長・発達をグループワークで理解し、健康な小児の養育の方法や養育の実際を講義する。						
一般目標	1. 歴史的・社会的発展の中で子どもを理解し、小児医療の発展に伴う小児看護の専門的機能と役割と特徴について説明できる。 2. 子どもの権利と親の権利をふまえた小児看護のあり方について説明できる。 3. 小児の発達や健康の維持・回復に大きく影響する家族について理解し、家族アセスメント方法および子どもと家族を取り巻く社会の影響について説明できる。 4. 小児の成長発達を理解し、健康を促進するための援助方法を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論（医学書院）						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論（医学書院）						
	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
小児を取り巻く環境を踏まえ、小児の成長発達の理解し、説明することができる。				
技術(精神運動領域)				
西佐波保育園実習に向けて小児とのコミュニケーション技術を習得する。				
態度(情意領域)				
小児の成長発達のグループワークをととして、グループメンバーシップを発揮できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 小児看護とは	1. 小児看護とは 2. 小児看護の歴史と意義、課題	講義	
2	II. 子どもの権利と看護	1. 子どもの権利とは 2. 子どもの人権 3. 小児看護と倫理的配慮	講義	
3	III. 小児に関する法律	1. 児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約、母子保健法、学校保 健全法、児童虐待防止法	講義	
4	IV. 小児看護で用いられる 理論	1. セルフケア理論、エリクソン自我発達理論、ピアジェ認知発達理論 ボウルビー母子理論	講義	
5	V. 子供の成長・発達の原理	1. 成長発達の評価 ブリッジス情緒の分化、スキヤモン成長曲線	講義	
6	VI. 身体諸器官の発達	1. 新生児期～乳児期	講義	
7		2. 幼児期	講義	
8	VII. 乳児・幼児期の養育・ 看護	1. 排泄、食事(離乳食)、睡眠、衣類、清潔	講義	
9	VIII. 学童期の看護	1. 学童期の子どもと家族への看護	講義	
10	IX. 子供の成長発達	1. 子供の成長発達	GW	
11				
12				
13	X. 思春期の看護	1. 思春期の子どもと家族への看護	講義	

14	XI. 子どもによくみられる症状と看護	1. 活気、発熱、発疹、下痢、便秘、脱水、電解質	講義	
15	XII. 小児の救急処置について	1. 小児の急変時の処置、気道確保、胸骨圧迫	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)		○		20	
担当教員	田中 三千子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	小児はもともと、活気があり機嫌がよくいつも笑っている。小児にその健康を妨げる症状が出現した際に保護者とともに病院にくる。よって、小児看護の対象は小児および家族である。小児に出現する健康障害と健康問題が小児や家族に及ぼす影響を場面別(外来、入院、在宅など)に理解し、小児看護に必要な基本的姿勢や方法(プレパレーション)、小児に必要な看護技術について講義する。						
一般目標	1. 子どもの病気の理解の仕方や子供の成長発達や家族に病気が及ぼす影響を理解し、影響を最小限にするための看護について説明できる。 2. 健康問題を持つ子どもの生活・治療環境(入院、通院、在宅など)における援助方法と継続的なケアシステム・ネットワークの重要性と看護の役割について説明できる。 3. 健康問題の経過に伴う看護の特徴と発達段階を踏まえたセルフケア能力を高める看護援助方法について説明できる。 4. 小児看護技術の特徴と特殊な状態の子どもと家族に必要な看護方法について説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院)						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論 (医学書院)						
	根拠と事故防止からみた小児看護技術 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
外来受診時、入院時のそれぞれの看護の特徴と安全面に配慮した看護の重要性が理解できる。プレパレーションの概要を説明することができる。				
技術(精神運動領域)				
小児への問診、バイタルサイン測定(検温、呼吸音聴取)をプレパレーション技術を踏まえて実施できる。				
態度(情意領域)				
小児を尊重する言葉かけや人権に配慮したコミュニケーションが実践できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 健康障害を持つ小児・家族の看護	1. 病気に対する小児の理解	講義	
		2. 病気が小児の生活・成長発達に及ぼす影響と支援		
2		3. 小児の健康障害に伴う家族のストレスと支援	講義	
		4. 小児期に起こりやすい疾患の特徴と症状		
3	Ⅱ. 様々な環境にある小児の看護	1. 小児を取り巻く環境の理解	講義 DVD	
		2. 災害に直面した小児		
4	Ⅲ. 入院中の小児と家族への看護	1. 入院時オリエンテーション	講義	
		2. 入院中の看護		
5		3. インフォームドコンセント、アセント、プレパレーションの概念	講義	
		4. プレパレーションの実際		
6	Ⅳ. 外来における小児と家族の看護	1. 外来受診時の看護、問診、トリアージ	講義	
		2. 症状看護と継続看護		
7	Ⅴ. 検査や処置を受ける小児と家族への看護	1. 援助関係を形成する技術、問診	講義	
		2. 身体計測、バイタルサイン測定		
8		3. 小児が受ける主要な処置	講義	
		4. 酸素吸入、吸引、酸素 TENT		
9		5. 小児が受ける主要な検査	講義	
9		6. 腰椎穿刺、骨髄穿刺	講義	

10	V. 検査や処置を受ける小児と家族への看護	7. 安全・安楽を確保する技術:遊びの活用	講義	
		8. 小児の事故を防止するための看護技術・抑制		
11	VI. 症状別アセスメントと看護	1. フィジカルアセスメント	講義	
		2. 小児の看護に必要な看護技術		
12		3. 機嫌・啼泣、痛み、発熱、発疹、脱水	講義	
		4. 呼吸困難、チアノーゼ、ショック、痙攣、意識障害		
13		5. 消化器症状(悪心、嘔吐、下痢、便秘)	講義	
		6. 浮腫、出血、貧血、黄疸		
14		7. 予防接種と看護	講義 GW	
		8. 予防接種法と接種計画		
15		9. 小児の事故について	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	田中 三千子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	小児の疾患を大別すると先天性疾患、後天性疾患に分けられる。さらに年代別に出現しやすい疾患、急性期、慢性期、終末期、周手術期と各期の特有の疾患や病態、看護について講義する。また健康障害に直面した小児と小児の家族への支援の方法を講義する。						
一般目標	1. 急性期にある子どもと家族への看護を説明できる。 2. 慢性期にある子どもと家族への看護を説明できる。 3. 終末期にある子どもと家族への看護を説明できる。 4. 手術を受ける子どもと家族への看護を説明できる。 5. 障害のある子どもと家族への看護を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論（医学書院）						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論（医学書院）						
	根拠と事故防止からみた小児看護技術（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
小児の慢性期、急性期、終末期特有の疾患と病態の理解、各期の特徴を踏まえた看護を理解することができる。				
態度(情意領域)				
小児の疾患のアセスメントをゴードンの枠組みにて展開できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ．急性期にある小児と家族への看護	1. 急性期にある小児と家族への看護	講義	松川
		2. 急性期にある小児と家族の特徴		
2		3. 急性気管支炎・肺炎の小児の看護	講義	
		4. 気管支喘息の小児の看護		
3		5. ファロー四徴症の小児と家族の看護	講義	
		6. 急性腎炎の小児と家族の看護		
4		7. 川崎病の小児と家族の看護	講義	
5		8. 感染症性疾患をもった小児と家族の看護 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、髄膜炎、百日咳)	講義	
6	Ⅱ．慢性期にある小児と家族への看護	1. 慢性期にある小児と家族への看護	講義	田中
		2. 慢性期にある小児と家族の特徴		
7		3. ネフローゼ症候群の小児と家族の看護	講義 GW	
		4. I 型糖尿病の小児と家族の看護		
8	Ⅲ．終末期にある小児と家族への看護	1. 終末期にある小児と家族への看護	講義	
		2. 終末期にある小児と家族の特徴		
		3. 小児の死の概念発達		
9		4. 急性リンパ性白血病の小児と家族の看護	講義	
10	Ⅳ．手術を受ける小児と家族への看護	1. 手術を受ける小児と家族への看護	講義	
		2. 手術を受ける小児と家族の特徴		
11		3. 腸重積患児と家族の看護	講義	
		4. 幽門狭窄症患児と家族の看護		
12		5. 鎖肛患児の看護	講義	

12	IV. 手術を受ける小児と家族への看護	6. 口唇口蓋裂患児の看護	田中	田中
13		7. 先天性股関節脱臼の小児の看護	講義	
		8. 継続看護について		
14	V. 障害のある子どもと家族の看護	1. 障害のある子どもの特徴	講義	宗東
15		2. 重症心身障害児の特徴		
		3. 障害のある子どもの看護	講義	
		4. 医療的ケアについて		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	田中 三千子 松川 恭江 宗東 博文		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学演習			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	子どもの健康に関する問題状況は多岐にわたる。少子化・家族形態の変化・子育ての価値観や家族観の多様化、家族や地域社会の育児機能の変化とともに養育者・遊び・食事もそのあり方が変わってきた。そのような時代を背景に、社会が抱えている問題と関連づけ、小児期にある対象及び家族を尊重し、理解することが求められる。演習では、成長・発達および健康レベルに応じた看護技術(プレパレーション)をロールプレイ演習をすることで、小児の直面する課題や技術を習得する。また小児特有の看護過程、アセスメントの視点を学ぶ。						
一般目標	1. 小児期にある対象への看護過程を説明できる。 2. 小児看護に必要な看護技術(プレパレーション)を実施できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (医学書院)						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論 (医学書院)						
	根拠と事故防止から見た小児看護技術 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
小児に必要な看護技術の知識を理解し援助計画に表現することができる。				
技術(精神運動領域)				
グループワークで討議した内容をロールプレイにて表現できる。				
態度(情意領域)				
グループメンバーとしてグループディスカッションに積極的に参加している。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 看護過程の展開	1. 川崎病患児の事例展開	講義 演習	
2				
3				
4	Ⅱ. ロールプレイ練習	1. 与薬	演習	
		2. 輸液管理		
5		3. 検体採取	演習	
		4. 呼吸・循環・栄養管理		
6		5. プレパレーション技術	演習	
7	Ⅲ. ロールプレイ	1. 事例患児の各技術ロールプレイ	演習	
		事例患児の各技術ロールプレイ		
8		2. リフレクション		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート	○			50	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)		○	○	20	
担当教員	田中 三千子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学実習			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	小児を取り巻く環境は大きく変化しており、子どもの健康に関する問題状況は多岐にわたる。少子化・家族形態の変化・子育ての価値観や家族観の多様化、家族や地域社会の育児機能の変化とともに養育者・遊び・食事もそのあり方が変わってきた。そのような時代を背景に小児が直面する問題と関連づけ、健康に障害のある対象の疾患を理解し、対象を尊重し、成長・発達および健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。また、幼稚園実習では、子どもの健全な成長発達を学ぶ機会とする。						
一般目標	1. 小児期にある対象を成長・発達し続ける存在として、身体的・精神的・社会的側面から理解し、成長・発達を促し健康課題の解決につながる看護を説明できる。 2. 小児の成長・発達および健康状態に応じた基礎的看護技術を実施できる。 3. 小児の生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を習得する。 4. 小児及び家族との人間関係を築き、発展させるための働きかけを説明できる。 5. 保健・医療・福祉・教育チームの一員としての看護師の役割を理解し、他職種と協働できる。 6. 小児看護学実習を通して小児観、看護観を深める。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	西佐波保育所実習1日目	1. 健康な小児の成長発達を理解する。 (2年前期に履修)	臨地実習	15時間
2	西佐波保育所実習2日目			
3	学内学習	1. 確認試験・技術試験(臥床患者シーツ交換、経管栄養、小児の計測)	学内実習	4.5時間
4	病院実習1日目	1.実習病院概要、外来の役割、受け持ち患者の理解、情報収集	臨地実習	67.5時間
5	病院実習2日目	1.健康を障害された小児を身体的・精神的・社会的側面から理解する。		
6	病院実習3日目	2.小児の成長発達を踏まえた、健康上の課題解決に向けた看護を学ぶ。		
7	病院実習4日目	3.初期計画検討会において、対象理解、看護過程の展開を発表できる。		
8	病院実習5日目	4.援助計画に基づいてリスクマネジメントに配慮し援助を実施できる。		
9	病院実習6日目	5.他職種の連携や協働を理解できる。		
10	多々良幼稚園実習1日目	1.実習施設概要		
11	多々良幼稚園実習2日目	1.健康な小児の成長発達を理解する。		
12	多々良幼稚園実習3日目	1.小児の人権を尊重し尊厳を理解したコミュニケーション・小児観		
13	学内実習	1.テーマカンファレンス:小児観・確認試験・技術試験	学内実習	3時間
担当教員		田中 三千子	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	母性の特性を理解し母子およびその家族の健康の維持増進、疾病の予防のための看護を講義する。						
一般目標	1. 母性の概念および母性の特性を理解できる。 2. 母性を取り巻く現状を理解し母子保健システムにおける母性看護の意義と役割を理解できる。 3. 女性のライフサイクル各期の特徴および性と生殖に関する健康と看護を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
母性の概念及び母性の特性を説明できる 母性を取り巻く現状を理解し、母子保健システムにおける母性看護の意義と役割を説明できる 女性のライフサイクル各期の特徴および性と生殖に関する健康と看護を説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 母性看護の概念	1. 母性看護の基礎となる概念 1) 母性看護学とは 2) 母性とは 2. セクシャリティ 3. リプロダクティブヘルス/ライツ 4. ヘルスプロモーション 5. 母性看護の概念 6. 母性看護における倫理	講義	
2	II. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1. 母性看護の変遷 1) 母性看護の起源 2) 江戸時代のお産 3) 近代～現代までの母子保健	講義	
3		2. 母子保健統計の動向 1) 出生に関する動向 2) 死亡に関する動向 3) 人工妊娠中絶の動向 3. 母性看護に関する施策 4. 母性看護の対象を取り巻く環境	講義	
4		III. 女性のライフサイクル各期における看護 1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 性周期と女性のライフサイクル 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護	講義	
5			講義	
6	IV. リプロダクティブヘルスケア	1. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症の予防 3) HIVに感染した女性の看護 4) 人工妊娠中絶と看護	講義	

7	IV. リプロダクティブヘルス	5)喫煙女性の健康と看護 6)性暴力(DV)を受けた女性の看護 7)児童虐待と看護 8)国際化社会と看護	講義	
8	試験	試験		

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野崎 美紀		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期における母子の特徴を理解し、生理的変化が順調に経過するための看護を学ぶ。						
一般目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 2. 母子及びその家族に対する健康の維持増進に向けた援助内容と方法を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院） 根拠と事故防止からみた母性看護技術（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・精神的・社会的特徴を理解する				
態度(情意領域)				
母子及びその家族に対する健康維持増進に向けた援助について討議する				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 妊娠期の看護	1. 妊娠期の身体的特徴 1)妊娠の生理・胎児の発育と生理・母体の生理的变化	講義	
2		2. 妊娠期の心理的・社会的特徴	講義	
3		3. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント ① 1)生理的变化に伴う不快症状(マイナートラブル)		
4		4. 親となるための準備教育	講義	
		5. 妊婦のアセスメント(演習)		
5	Ⅱ. 分娩期の看護	1. 分娩期の看護 1)分娩の生理・分娩の3要素・分娩経過	講義	
6		2. 分娩の進行、経過	講義	
		3. 分娩進行に伴う産婦・胎児の身体的変化		
7		4. 産婦・胎児の情報収集とアセスメント	講義	
8	Ⅲ. 新生児の看護	1. 新生児期の看護 1)新生児の生理的・身体的特徴	講義	
9		2. 新生児の健康状態のアセスメント 1)新生児のアセスメント項目と診断に必要な視点	講義	
10		2)新生児の健康状態のアセスメント	演習	
11	Ⅳ. 産褥期の看護	1. 産褥期の看護 1)産褥期の身体的・心理的・社会的特徴	講義	
12		2. 褥婦のアセスメント項目と診断に必要な視点	講義	
13		3. 褥婦の健康状態のアセスメント 1)褥婦のアセスメント①(演習)	講義 演習	
14		2)褥婦のアセスメント②(演習)	講義 演習	
15	V. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護	1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児期の看護に必要な看護技術	講義 演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	評価なし	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	周産期に起こりやすい健康障害を理解し、健全な母性の遂行のための看護を学ぶ。						
一般目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児各期に起こりやすい健康障害を説明できる。 2. 健康障害をもった母子の看護を行うための基礎的知識を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
妊娠・分娩・産褥及び新生児各期に起こりやすい健康障害について理解できる				
態度(情意領域)				
健康障害をもった母子の看護の基礎的知識を表現できる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ．妊娠の異常と看護	1. ハイリスク妊娠の要因と看護	講義	吉本
		2. 妊娠悪阻、流産の原因、治療、看護		
2		3. 早産・切迫早産の原因・治療・看護	講義	
		4. 妊娠中の母子感染の原因や症状を知り、感染対策		
3		5. 前置胎盤・常位胎盤早期剥離の原因・治療・看護	講義	
		6. 羊水塞栓・子宮内反症の原因・治療・看護		
4		7. 妊娠高血圧症候群の要因及び病態・治療・看護	講義	
		8. 血液型不適合妊娠の概要		
5		9. 多胎妊娠の管理と看護	講義	
		10. 糖代謝異常の病態と管理及び看護		
6	Ⅱ．分娩の異常と看護	1. 卵膜・羊水異常の病態と治療・看護	講義	
		2. 遷延分娩の原因・治療・看護		
7		3. 産科出血の病態・治療・看護	講義	
		4. 子宮復古不全の原因と治療・看護		
8		5. 産褥感染症及び産褥塞栓症の病態・治療・看護	講義	
		6. 産褥期の精神障害の原因と看護		
9		7. 帝王切開を受ける産婦の看護	講義	
		8. 死産・障害児を出生した褥婦の看護		
10	Ⅲ．胎児機能不全の看護、 分娩時外傷の看護	1. 胎児機能不全の病態と看護	講義	
		2. 分娩時外傷の病態と看護		
11	Ⅳ．新生児の異常と看護	1 新生児の異常である新生児仮死の病態と治療及び看護	講義	
		2. 低出生体重児の特徴及び特有の疾患の治療		
		3. 高ビリルビン血症の治療と看護		

12	V. 妊娠・分娩・産褥異常の看護	1. 切迫早産・妊娠糖尿病・前期破水・産褥精神障害	講義	吉本
13	VI. 母性看護と生命倫理	1. 遺伝相談・出生前診断・着床前診断	講義 GW	
		2. 出生前診断を受ける人の看護		
		3. 不妊治療と看護(事例をもとに看護をGW)		
14	VII. NICUにおける看護の実際	1.新生児の異常と看護 1)NICUとは 2)GCUとは	講義	小澤
15		2. 新生児の異常と看護 1)周産期とは 2)ハイリスク新生児とは	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	評価なし	
担当教員	吉本 美恵 小澤 舞		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学演習			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	周産期の母性に必要な看護技術を習得し、対象に応じた看護を展開する方法を学ぶ。						
一般目標	1. 母性看護に必要な看護技術をし習得する。 2. 母性の事例をととして対象に応じた看護を展開する方法を習得する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院） 根拠と事故防止からみた母性看護技術（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
母性看護に必要な看護技術の知識を理解することができる				
技術(精神運動領域)				
母性の事例をととして対象に応じた看護を展開する技術を実施する				
態度(情意領域)				
母性看護に必要な看護技術を習得することができる				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 母性看護学における看護過程	1. 看護過程の展開	講義 演習	
		2. ウェルネス型の考え方・看護診断		
		3. 褥婦・新生児のアセスメント・看護診断について		
		4. 事例① 産褥期及び新生児期		
2		5. 事例① 産褥期及び新生児期	演習	
3	Ⅱ. 母性看護学に必要な看護技術	1. 妊産褥婦に必要な看護技術 1)レオポルド触診法・子宮底測定・腹囲測定・陣痛測定 2)産痛緩和・産褥の子宮底の観察・悪露交換・乳房の観察	演習	
4		2. 新生児に必要な看護技術 1)バイタルサイン測定・おむつ交換・沐浴 4. 産褥期の看護 ①	演習	
5		5. 産褥期の看護 ②		
6			演習	
7		5. 新生児期の看護	演習	
8	Ⅲ. 母性看護学看護過程	1. 事例②	演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート	○			25	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)		○		50	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学実習			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	母性看護学実習は、女性のライフサイクルの中で、劇的に変化する周産期に焦点をあて、「生命の誕生」の瞬間に立ち会い、新しい生命をはぐくみ育てる過程での援助を学ぶ。妊娠・分娩・産褥にある女性と新生児の一連の特徴を理解することによって、生命の誕生とその過程とその看護についての学びを深めることができ、また、生命の尊厳を尊重する態度を養うことができる。 新しい家庭の誕生は様々な役割変化につなげる家族の発達段階である。母性をめぐる社会変化と看護の役割のなかでより健康レベルの高い対象への継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の一員として母子の健康増進のために必要な看護を学ぶ。						
一般目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から説明できる。 2. 対象に応じた健康上の課題解決に向けた看護を学ぶ。 3. 母と児（胎児）の生命の尊厳と個々の人格と価値観を尊重する態度を身につける。 4. 母子の健康保持増進のために保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、他職種と協働できる能力を身につける。 5. 母性看護学実習をとおして、自己の母性観・父性観・看護観を深める。						

到達目標

知識(認知領域)				
実習要綱参照				
技術(精神運動領域)				
実習要綱参照				
態度(情意領域)				
実習要綱参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内実習	1.確認試験・技術試験(妊婦・褥婦の子宮底測定・沐浴(おむつ交換更衣))	学内実習	42時間
2	実習1日目(学内実習①)	1.妊娠期(体験課題・事例課題及び事例に対する必要な保健指導)		
3	実習2日目(学内実習②)	2.分娩期(DVD視聴・分娩期1～4期の看護のポイント発表会)		
4	実習3日目(学内実習③)	3.新生児アセスメント(DVD視聴・出生直後の観察と看護) 新生児のVS沐浴		
5	実習4日目(学内実習④)	4.産褥期(DVD視聴・褥婦の観察・事例褥婦のアセスメント・沐浴指導)		
6	実習5日目(学内実習⑤)	5.産褥期(講座・産褥期の回復に影響する因子・産婦及び新生児の看護)		
7	実習6日目(分娩見学)	6.分娩期における看護の実際を知る(陣痛測定・児心音聴取・産痛緩和)	臨地実習	45時間
8	実習7日目(産婦人科外来)	7.妊婦の健康管理の方法の実際を理解する		
9	実習8日目(小児科外来)	8.乳児健診及び予防接種の実際を理解する		
10	実習9日目(病棟)	9.褥婦の看護(対象理解のため情報収集・バイタルサイン・授乳指導)		
11	実習10日目(病棟)	10.褥婦の看護(退行性変化・進行性変化を深める)		
12	実習11日目(病棟) 学びの会	11.新生児の看護(生後日数に応じた変化を理解する)		
13	学内実習	1.学びの共有・確認試験・技術演習	学内実習	3時間
担当教員		吉本 美恵	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神看護学の位置づけと目的、および精神看護の対象を学ぶ。						
一般目標	1. 精神看護の目的・対象を説明できる。 2. 精神看護の対象を取りまく現代社会の特徴を理解し、必要な援助について説明できる。 3. 精神医療の変遷と社会における精神障害者の処遇について説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
精神看護の目的・対象を説明できる。 精神看護の対象を取りまく現代社会の特徴を理解し、必要な援助について説明できる。 精神医療の変遷と社会における精神障害者の処遇について説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 精神保健と精神医療	1.精神看護学とその課題	講義	
		2.精神の健康とは		
2		3.精神障害とはどういうものか	講義	
3		4. 現代社会と精神医療の現状	講義	
4	Ⅱ. 精神の健康と障害	1. 精神障害の理解	講義	
		2. ICFの考え方		
5	Ⅲ. 社会のなかの精神障害	1. 精神障害と治療の歴史	講義	
6		2. 日本における精神医学・精神医療の流れ	講義	
7		3. 精神障害と社会学	講義	
8		4. 精神障害と法制度	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	大庭 沙織		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ対象の疾患、症状、問題の特徴、および治療法を理解し、看護に必要な援助方法を学ぶ。						
一般目標	1. 発達段階における心の発達と健康問題について理解する。 2. 主な精神疾患・症状が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。 3. 治療の有害反応が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
発達段階における心の発達と健康問題について理解する。 主な精神疾患・症状が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。 治療の有害反応が日常生活へ及ぼす影響と基本的な看護について理解する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 人間の心のはたらき	1.人間の心の諸活動	講義	
2		2.自我の発達段階と防衛機制	講義	
3		3.ライフサイクルとメンタルヘルス	講義	
4		4.危機介入とストレス理論	講義	
5	Ⅱ. 身体をケアする	1.精神科におけるフィジカルアセスメント	講義	
6		2.身体にあらわれる心の痛み	講義	
7		3.抗精神病薬の有害反応と看護	講義	
8		4.抗精神病薬の有害反応と看護	講義	
9		5. 精神療法、電気けいれん療法と看護	講義	
9		6. 心理教育・生活技能訓練(SST)	講義	
10	Ⅲ. 精神科における看護	1. 主な精神疾患の治療と看護	講義	
11		1)統合失調症	講義	
12		2)気分障害(躁うつ病)	講義	
12		3)神経症性障害	講義	
13		4)パーソナリティ障害、摂食障害など	講義	
13		5)器質性精神障害	講義	
13		6)精神作用物質関連障害など	講義	
14		2.検査時の看護	講義	
14		1)身体的検査	講義	
14		2)心理検査	講義	
15		3. 精神科看護における安全管理	講義	

成績評価方法

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)		態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準 秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
定期試験	○				80	
小テスト					評価なし	
課題レポート	○				20	
授業態度					評価なし	
演習(GW・技術等)					評価なし	
担当教員	大庭 沙織		実務経験紹介		有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ対象をとりまく環境と精神保健・福祉・医療における看護師の機能と役割を学ぶ。						
一般目標	1.現代社会における家族のあり方や精神障害者を身内にもつ家族に必要な支援を行うことの重要性を理解する。 2.精神科病棟の特徴と治療的環境について理解し、対象の安全を守るための留意点を理解する。 3.リハビリテーションと回復を支えるさまざまな方法について理解する。 4.リエゾン精神看護について理解する。 5.地域で精神障害者を支援するための方法と保健・福祉・医療における看護師の役割を学ぶ。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院)						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
現代社会における家族のあり方や精神障害者を身内にもつ家族に必要な支援を行うことの重要性を理解する。 精神科病棟の特徴と治療的環境について理解し、対象の安全を守るための留意点を理解する。 リハビリテーションと回復を支えるさまざまな方法について理解する。 リエゾン精神看護について理解する。				
態度(情意領域)				
精神障害を持つ人のアセスメントと看護計画の立案ができる。				
回数	授業項目	授業内容	講義	講師
1	Ⅰ. ケアの人間関係	1. ケアの前提・原則・方法 関係をアセスメントする	講義	大庭
2		2. 患者-看護師関係	講義	
3	Ⅱ. 看護過程の展開	1. 情報の整理～アセスメント	演習	
4		2. アセスメント～看護計画立案	演習	
5	Ⅲ. 関係のなかの個人	1. 全体としての家族	講義	
6		2. 人間と集団	講義	
7	Ⅳ. 入院治療と看護の展開	1. 精神科病棟における治療的環境 1)行動制限、処遇などにおける看護	講義	立場
8		2. 緊急事態への対処 1)自殺・離院・窒息などへの対応	講義	
		3. 安全を守ること、人権を守ること		
9		1. 在宅療養にむけた看護の実際 1)症状マネジメントの実際 2)服薬管理・心理教育指導	講義	綿谷
10		2. 精神療法・リハビリテーション療法と看護	講義	
11	Ⅴ. 地域における精神看護	1. 地域で生活するための原則	講義	伊藤
12		2. 生活を支える制度	講義	
13		3. 地域で精神障害者を支援するための方法	講義	
14		4. 地域での看護の実際	講義	
15	Ⅵ. 精神科以外での精神看護	1. リエゾン精神看護	講義	大庭
		2. 看護における労働感情と看護師のメンタルヘルス		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	20	
担当教員	大庭 沙織 伊藤 悦子 立場 貴大 綿谷 洋		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学演習			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ対象と治療的人間関係を構築し、看護を実践するための方法を学ぶ。						
一般目標	1. 治療的対人関係の意味と、看護師が果たす役割を理解する。 2. 自己理解と他者理解について理解する。 3. 治療的コミュニケーション技法を活用できる。 4. 精神障害や精神疾患についての社会状況を知り、まとめることができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院）						
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
精神障害や精神疾患についての社会状況に興味を持ち考えることができる				
技術(精神運動領域)				
治療的コミュニケーション技法を活用でき、振り返ることができる。				
態度(情意領域)				
自己理解が深まる。精神障害や精神疾患についての社会状況を知り、話し合いまとめることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. コミュニケーション技術	1. コミュニケーション技法の体験	演習 GW	
2		2. 自己理解と他者理解	演習 GW	
3		3. 対象の理解	演習 GW	
4		4. 対象の理解と治療	演習 GW	
5	Ⅱ. 援助のための対人関係 技術	1. 治療的コミュニケーション技術(他者理解)	演習 GW	
6		2. 患者—看護師関係の成立と発展過程	演習 GW	
7	Ⅲ. 精神障害をとりまく地域 社会の現状	3. 精神障害に関する社会の話題や現状	GW	
8				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	60	
授業態度		○	○	20	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	大庭 沙織		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神科看護学実習			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	後期	教員実務経験対象		有	
授業概要	精神に障害をもつ対象は、同じ診断であっても症状の現れ方や経過、訴えは異なる。それは患者1人1人の成育歴、パーソナリティ、その人を取り巻く環境に大きく影響されるからである。実習ではそれら対象特性を理解して看護過程を展開し、精神看護に必要な知識、技術、態度を身に付けつつ、精神看護の本質に迫り喜びを体験することで、自己学習力の基盤となる看護観を深める。						
一般目標	1. 精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 精神に障害をもつ対象に応じた看護を計画・実践・評価できる基礎的能力を養う。 3. 精神に障害をもつ対象の人格を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。 4. 精神保健・福祉・医療における看護師と他職種の役割、連携について理解を深め、他職種と協働できる能力を養う。 5. 精神看護学実習を通して看護師にもとめられる資質と役割を探究し、看護観を深める。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)						
実習要綱参照						
技術(精神運動領域)						
実習要綱参照						
態度(情意領域)						
実習要綱参照						
回数	授業項目	授業内容			講義	備考
1	病院の文化祭への参加 (2年次11月)	精神科病院と地域の位置付けの理解・精神に障害をもつ人を知る			講義	7.5時間
2	学内実習	確認試験・技術確認(導尿)			学内実習	4.5時間
3	実習1日目:オリエンテーション	病院の概要・病棟の概要・患者紹介			臨地実習	75時間
4	実習2日目:情報収集 日常生活援助	1. 精神に障害をもつ対象の統合的理解 1)身体的側面・精神的側面・社会的側面 2)精神障害の特徴と治療環境の理解 2. 精神に障害をもつ対象に応じた看護を計画・実践・評価 1)個別性をふまえた看護計画の立案と実施 2)信頼関係を結ぶコミュニケーション 3)プロセスレコードを用いて自己のコミュニケーションの振り返り 3. 精神に障害をもつ対象の人格を尊重し、倫理的判断に基づいた行動 1)法や制度の理解 4. 他職種の役割、連携について理解を深め、他職種と協働 1)地域生活をする上での社会資源 2)関わる職種間の連携 5. 精神看護観				
5	実習3日目:デイケア デイナイトケア					
6	実習4日目:看護過程の 展開 カンファレンス					
7	実習5日目:看護過程の 展開 カンファレンス					
8	実習6日目:初期計画検討会					
9	実習7日目:看護過程の 展開 カンファレンス					
10	実習8日目:看護過程の展開					
11	実習9日目:学びの会					
12	地域施設実習					
13	学内実習	情報共有・確認試験			学内実習	3時間
担当教員		大庭 沙織		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	傷病・障害をもちながら地域で療養・生活する人とその家族の特性を知り、歴史の中で育まれてきた在宅看護の現状と展望を踏まえて、看護職として果たすべき役割を理解する。						
一般目標	1. 在宅看護の目的について説明できる。 2. 日本の在宅看護の変遷とその社会背景について述べることができる。 3. 在宅看護の基本理念について説明する。 4. 在宅療養者と家族の特性を知り、支援の必要性を知る。 5. 在宅ケアにおける看護職の役割を説明できる。						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア（メディカ出版）						
	よくわかる在宅看護(学研)						
	国民衛生の動向（厚生労働省統計協会）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
在宅看護の対象・活動の場・看護活動の特徴について知る。 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について知る。 在宅療養者と家族の特性を知り、支援の必要性を知る。 在宅ケアにおける看護職の役割を説明できる。				
態度（情意領域）				
主体的に参加し協力できる（GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等）				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ．在宅看護の概念	1. 在宅看護の基盤 1)在宅ケア 2)在宅看護と訪問看護 3)在宅看護の役割と機能 4)在宅看護活動の特徴 5)在宅看護の対象 6)生活の場に応じた看護とサービス提供機関	講義 DVD	
2		2. 在宅看護の背景 1)社会的背景と国民の価値観の変容 2)日本の在宅看護の変遷と今後の課題	講義	
3		3. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 1)自立・自律支援 2)病状・病態の予測と予防 4. 生活ケアと医療的ケア	講義 GW	
4		5. 在宅看護を展開するための基本理念 1)アドボカシー、エンパワメントによる支援、パートナーシップ、ヘルスプロモーション 6. 在宅看護における倫理	講義	
5	Ⅱ．在宅療養者と家族の支援	1. 在宅看護の対象者	講義	

6	Ⅱ. 在宅療養者と家族の支援	2. 在宅療養の場における家族のとりえ方 1) 家族とは 2) 家族形態に応じた看護	講義 GW	
7		3. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族の介護力のアセスメントと調整 2) 家族関係の調整 3) ケア方法の指導 4) 家族介護者の健康 5) レスパイトケア	講義 GW	
8		3. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 1) 療養者、家族側の条件 2) サービス提供者側の条件	講義 DVD	

成績評価方法

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)		態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト					評価なし	
課題レポート	○				20	
授業態度					評価なし	
演習(GW・技術等)					評価なし	
担当教員	木村 美保		実務経験紹介		有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護論方法論Ⅰ（在宅ケアを支える看護）			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	在宅ケアの特徴および在宅ケアにおける連携・マネジメントについて理解する。						
一般目標	1. 在宅看護を支える訪問看護について理解する。 2. 在宅ケアにおける関連職種との連携と方法を理解する。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解する。						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア（メディカ出版）						
	よくわかる在宅看護技術ガイド（学研）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 在宅看護を支える訪問看護について具体的に述べる。 訪問看護師の役割および他職種との連携のあり方について具体的に述べる。 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について説明できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 在宅療養を支える訪問看護	1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義	木村
2	II. 地域療養を支える制度	1. 社会資源の活用 2. 在宅ケアを支える医療保険制度	講義	
3		3. 後期高齢者医療制度 4. 介護保険制度 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義	
4		5. 生活保護制度 6. 障害者に関連する法律 7. 難病法 8. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義	
5		1. 地域包括ケアシステムと高齢者施策 2. 療養の場の移行に伴う看護 3. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	講義 DVD	
6		4. 在宅ケアシステムの実際	講義	
7		5. 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント	講義	
8	IV. 在宅療養を支える看護	1. 訪問看護サービスの展開 2. 訪問看護記録	講義	
9	V. 在宅における安全と健康 危機管理	1. 在宅における危機管理 2. 日常生活における安全管理 3. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義	
		1. 生活ケアと医療ケア		

10	IV. 在宅における援助技術	2. 生活ケアの援助 1)食のアセスメントと援助 在宅経管栄養法(HEN)・在宅中心静脈栄養法(HPN)	講義 GW	木村
11		2)排泄のアセスメントと援助 膀胱留置カテーテル・ストーマ管理		
12		3)清潔のアセスメントと援助		
13		4)移動のアセスメントと援助		
14		5)呼吸のアセスメントと援助		
15		在宅酸素療法(HOT)在宅人工呼吸療法(NPPV)		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	木村 美保 斉藤 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護論方法論Ⅱ(状態別在宅看護)			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	在宅で見られることの多い特徴的な事例を用い、在宅での状態に応じた看護を理解する。						
一般目標	1. 在宅における医療管理を必要とする人とその看護を理解する。 2. 在宅看護における特徴的な事例を通し、アセスメント能力・判断力を養いながら、在宅看護過程の展開方法を理解する。 3. さまざまな事例から状態に応じた看護を理解する。						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア(メディカ出版)						
	実践できる在宅看護技術ガイド (学研)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解する。 在宅看護における看護展開の特徴と家族支援のあり方について理解する。 在宅看護におけるリスクマネジメントについて理解する。 在宅ケアをとりまく在宅医療システムのネットワークと機能を理解する。 在宅看護の対象と支える制度及び社会資源について理解する。				
技術(精神運動領域)				
家庭訪問の手順、倫理と心構えを理解し、訪問者としてのマナーを熟練する。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 対象に応じた在宅看護	1. パーキンソン病をめぐる在宅看護 服薬管理	講義 GW	木村
2				
3		2. 在宅酸素療法・人工呼吸器の実際	講義	蔵本
4		3. 呼吸器疾患や難病の療養者への訪問看護の実際	講義	柴崎
5				
6		4. 筋委縮性側索硬化症(ALS)をめぐる在宅看護(仮)	講義	原田
7		5. 事故により中途障害者となった成年へのケア(頸髄損傷)実際	講義	柴崎
8		6. 生活の自立を目指す精神障害者	講義	堀内
9				
10		7. ターミナルケアの実際	講義	岡藤
11		8. 地域で療養する子どもの実際	講義	松谷
12		9. 脳梗塞をめぐる在宅看護(回復期)	講義	木村
13	Ⅱ. 訪問看護に必要な基本的 態度・マナーの習得	1. 家庭訪問・初回訪問	講義 RP	木村
14		1) 初回訪問の事例(接遇)のロールプレイ準備		
15		2) 初回訪問(接遇)のロールプレイ		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート			○	15	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	15	
担当教員	木村 美保 岡藤 美智子 柴崎 恵子 堀内 久美子 松谷 依子 蔵本 美枝子 原田 典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護論演習			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	在宅看護論で学んだ知識を生かし、地域に暮らす在宅療養者とその家族に対する具体的な看護技術・態度を習得する。						
一般目標	1. 対象別の在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解する。 2. 在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。 3. 地域で生活する療養者の災害時の対応について理解する						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア（メディカ出版）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。 地域で生活する療養者の災害時の対応について理解する				
技術(精神運動領域)				
対象別の在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解する。				
態度(情意領域)				
対象別の在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 在宅療養を支える看護	1. ICFについて	講義	木村
2		訪問看護記録の書き方		
3	Ⅱ. 在宅における援助技術と医療的ケア	2.通所介護でのレクリエーション	講義 演習	
4		レクリエーション作成・演習		
5		3. 視覚障害者の排泄・入浴・移動の介助		
6		4. ALS療養者を想定した非言語的コミュニケーションの演習		
7				
8		5. ALS療養者を想定したベッド上での全身清拭		
9				
10		6. ALS療養者を想定したベッド上での洗髪		
11				
12		7. ALS療養者を想定したベッド上での足浴・フットマッサージ・爪切り		
13				
14		8. 膀胱留置カテーテル・胃瘻の援助		
15				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○		35	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)		○	○	60	
担当教員	木村 美保	実務経験紹介		有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護論実習			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	本実習では療養者と家族の生活の場である家庭や福祉サービスの場で実際に対象者と関わり、理解を深め、抱えている問題やニーズについて考え、価値観を尊重し、倫理的判断に基づいて看護を展開しながら、在宅看護に必要な基本知識・技術・態度を学ぶ。また、保健・医療・福祉の専門職や多職種間の連携・協働は不可欠であり、看護師としてのケアマネジメント能力が求められる中、地域で看護師がどのような役割を担っているか、病院で行っている退院指導が退院後に在宅でどのように活用されているか、ターミナルケアを含む継続看護についても学ぶ。						
一般目標	1. 在宅療養者とその家族を総合的に理解する。 2. 在宅生活を支援する上での課題解決に向けた看護を学ぶ。 3. 在宅療養者とその家族の人格や価値観を尊重し、倫理的判断に基づいた態度を養う。 4. 在宅ケアを支える看護師の役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と連携・協働する能力を養う。 5. 在宅看護論実習をとおして自己の看護観を深める。						
テキスト 参考書等	ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア(メディカ出版)、実践できる在宅看護技術ガイド（学研）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	学内学習	1. 確認試験・技術確認	学内実習	4.5時間
2	実習1日目:オリエンテーション	1. 施設概要・訪問看護師の役割理解	臨地実習	82.5時間
3	実習2日目:訪問看護ステーション	1. 在宅療養者とその家族についての理解 1)療養者の全体像の把握 2)療養者の生活に影響を及ぼす家族の状況 3)療養者と家族の健康上の課題とニーズ		
4	実習3日目:訪問看護ステーション	2. 在宅生活を支援する上での課題解決に向けた看護実践		
5	実習4日目:訪問看護ステーション	1)健康障害に応じた日常生活行動の自立支援を見学 2)在宅における医療管理の実践 3)在宅における終末期看護の実践 4)在宅で療養している人とその家族への対応		
6	実習5日目:通所介護	3. 在宅療養者とその家族の人格や多様な価値観の尊重・倫理的判断に基づいた態度		
7	実習6日目:通所介護	1)訪問者としての立場、マナー 2)価値観・人生観などの把握と尊重 3)家族の多様性・療養者・家族の生活様式 4)地域社会のなかでの療養者・家族		
8	実習7日目:看護小規模多機能型居宅介護	5)傾聴・共感的態度		
9	実習8日目:看護小規模多機能型居宅介護	4. 在宅ケアを支える看護師の役割と、他職種との連携や協働の理解		
10	実習9日目:居宅介護支援事業所	1)社会資源の種類と機能、連携方法 2)在宅看護における看護師の役割 3)ケアマネジメントの実践 4)通所介護施設及び看護小規模多機能介護の概要、療養者の利用目的、看護師の役割		
11	実習10日目:訪問看護ステーション	5. 在宅看護実習を通しての自己の看護観		
12	実習11日目:学びの会	1)在宅看護を通しての看護観 2)在宅看護の課題と自分自身の課題		
13	学内学習		学内実習	3時間
担当教員		木村 美保	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅰ（看護管理）			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護管理の基本的知識を学び、多職種と連携・協働する中で、看護師としてのメンバーシップ・マネジメントに必要な知識と技術を学ぶ。						
一般目標	1. 看護管理における看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメントを説明できる。 2. マネジメントに必要な知識や技術を説明できる。 3. 多職種連携の取り組みを理解しその意義を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） マネジメントプロセスの構成要素を4つ挙げ、それぞれの意味を説明できる。 福祉施設等における資源（人的・物的・財的）活用のポイントを説明できる。 チーム医療を理解し、多職種連携・協働について説明できる。 組織の理念・目標達成のための目標管理の意義と方法が説明できる。				
態度（情意領域） グループワークに主体的に参加し、協議・情報共有ができる。 課題に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護とマネジメント	1. 看護管理学の基本的要素 2. 看護におけるマネジメントとは 3. 看護におけるマネジメントの考え方の変遷	講義	伊藤
2	II. 看護ケアのマネジメント	1. 看護ケアのマネジメントにおける看護職の機能・役割 2. チーム医療 3. 日常業務のマネジメント	講義 GW	
3	III. 看護サービスの マネジメント	1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 人材、施設設備、物品、情報のマネジメント 3. サービスの評価	講義	宇都宮
4	IV. マネジメントに必要な 知識と技術	1. マネジメントプロセス、マネジメントサイクル 2. リーダーシップとマネジメント 3. 組織の調整	講義 GW	伊藤
5	V. 看護を取り巻く諸制度	1. 看護職と法・制度 2. 医療制度 3. 看護政策と制度	講義	
6	VI. 多職種との連携・協働	テーマ「多職種の役割と責務を理解し協働を考える」 1. 保健医療福祉関係職種によるシンポジウム 2. グループワーク 3. 意見交換	シンポジウム GW	
7				
8	VII. 看護職の キャリアマネジメント	1. キャリアとキャリア形成 2. キャリアラダー 3. 総括	講義	

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 （ ）内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート			○	10	
授業態度			○	10	
演習（GW・技術等）				評価なし	
担当教員	伊藤 悦子 宇都宮淑子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅱ－1			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護研究の意義と文献検索および活用方法を理解し、看護研究の基礎を学ぶ。						
一般目標	1. 事例における研究とケーススタディの意義を説明できる。 2. 文献検索および文献検討の方法を説明できる。 3. 研究の方法の過程の概要を理解する。 4. クリティークの目的・基準を理解する。 5. 看護研究において擁護されるべき権利について理解する。 6. 発表および参加の仕方を理解する。						
テキスト 参考書等	わかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 看護倫理において看護計画書に記載する事項を述べることができる。 研究の進め方について項目を書き出せる。 文献検索をする方法がわかる。 変数の定義と種類がわかる。 データ収集とデータの集計・分析の方法がわかる。 論文の構成がわかる。				
技術(精神運動領域) 模擬研究レポートにおいて研究テーマを記述できる。 統計的処理方法が1例できる。 一般的な倫理的必要条件が書ける。 模擬的研究計画書作成ができる。 ケーススタディの方法を発表できる。				
態度(情意領域) 看護実践の基礎となる科学的知識体系を発展させる、専門集団としての責任を自覚できる。 看護研究における倫理的配慮がイメージできる。 看護場面において常に研究的関心を抱き、テーマとなるものを感じ取ることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護における研究の意義	1. 研究の定義と種類	講義	
		2. 研究の必要性		
	II. 文献の活用	1. 文献活用の方法		
2	III. 研究の方法	1. 研究課題の発見	講義 GW レポート	
		2. 概念枠組みの決定		
		3. 変数と仮説の設定		
3		4. 研究デザインの選定		
		5. データの収集方法		
		6. データの分析方法		
4		7. 研究計画書の作成		
		8. 論文のまとめ方		
5	IV. 事例研究のクリティーク	1. クリティークの目的	講義 GW 小テスト	
		2. 批判的読み方とは		
6		3. 量的研究と質的研究のクリティークの基準		
		4. クリティーク能力を伸ばすための方策		
7	V. 研究における倫理	1. 倫理原則	講義 小テスト	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○	○	○	70	
課題レポート	○			10	
授業態度	○	○	○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	伊藤 悦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅱ－2（事例研究）			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護研究の基礎で学習した学びをもとに看護研究を行い、日々の看護実践を科学的に捉える力や、問題意識を持ち看護を探究する態度を養う。						
一般目標	1. 文献検索と研究計画書を作成し看護への興味を深める。						
テキスト 参考書等	わかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						

到達目標（行動目標）

知識(認知領域)					
興味のある分野に対して文献検索をする方法がわかる。 文献を通し、変数の定義と種類、データ収集とデータの集計・分析の方法がわかる。 研究方法の分類がわかる。					
技術(精神運動領域)					
興味のある分野に対し、適切に文献検索ができる。 自分の興味のある分野について文献検索に基づき発表ができる。 指定された書式に基づき、研究計画書を作成できる。					
態度(情意領域)					
看護研究的関心を抱き、研究計画書の作成に主体的・積極的に取り組むことができる。 自らの考えをわかりやすく伝えることができる。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	Ⅰ．看護研究の意義	1. シラバスの説明	講義		
		2. 研究の成果は、看護にどのように生かされるのか			
		3. 自分の興味を引き出す			
		4. 文献検索の方法			
2	Ⅱ．文献検索の実践と看護への探究	1. 興味のある分野の文献を検索	演習		
3		1. 「興味がある分野はどのように研究されているか」発表準備			
4					
5					
6	Ⅲ．探究した看護の発表	1. 発表「興味がある分野はどのように研究されているか」			
7					
8	Ⅳ．看護研究の方法	1. 研究の種類・分類	講義		
		2. 看護研究における倫理的配慮			
		1. アンケート調査			
9		1. 書式と構成			
10	Ⅴ．研究計画書の作成	1. 研究計画書の作成	演習		
11					
12					
13					
14					
15		2.査読			

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○		15	
課題レポート		○		70	
授業態度			○	5	
演習（GW・技術等）		○		10	
担当教員	隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅲ（医療安全・災害看護・国際看護）			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	学生が将来看護師として重大事故を起こさないことを目指し、どうすれば安全に看護を行うことができるかを演習を通して学んでいけるよう授業を進める。また、災害時に看護師として看護活動が行える基礎を教授する。国際看護では、世界の健康に関心を持ち、外国人に看護ができるための基礎的知識を学ぶことができるよう授業を進める。						
一般目標	1. 医療安全の基礎的知識を理解する。 2. 災害時に看護者が果たす役割と災害各期における災害支援活動を説明できる。 3. 国際的な健康問題、国際協力のしくみ、外国人への看護を説明できる。						
テキスト 参考書等	看護学概論（医学書院） 医療安全ワークブック（医学書院）						

到達目標

知識(認知領域)				
医療安全、災害看護、国際看護の基礎的知識を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
医療安全を意識した行動ができる。				
態度(情意領域)				
医療安全、災害看護、国際看護の関心を高めることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 医療安全と看護の責務	1. 医療安全の考え方の変化 2. チーム医療と看護師の責務 3. チーム医療と看護師の責務	講義	下野
2	II. 事故発生のメカニズムと対策	1.事故発生のメカニズム 2.事故分析インシデント 3. 事故対策	講義 演習	
3	III. 看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応	講義 演習	
4	IV. 医療安全施策と事故後の対応	1. 医療安全施策 2.医療事故発生時の初期対応	講義	
5	V. 安全対策 生活の援助 医療機器	1. 看護業務と事故発生要因 2. 患者取り違い、転倒転落、誤嚥	講義 演習	
6	V. 安全対策 注射	1.注射における危険 2.ラベルの意味 注射薬の規格 間違えやすい薬物	講義	
7	VI. 医療安全の基本と管理の 実際	1. 組織での医療事故 2. 事故の原因とその分析(sehll分析)	講義	リスクマネ ジャー
8		3. 安全対策の検討および実施	講義	

9	Ⅶ. 災害看護	1.災害看護の取り組みの始まり	講義 演習	下野
		2.災害の定義 種類 特徴		
		3.災害サイクル		
10		4.トリアージ		
		5.災害サイクルに応じた看護		
		6.施設内災害時の初期対応		
11		7.心理的回復の過程		
		8.災害への備えとそのシステム		
12	Ⅷ. 国際看護	1.国際看護学とはなにか	講義	下野
		2.健康と保健医療の世界的課題		
		3.持続可能な開発目標 (SDGs)		
13		4. 国際協力の仕組み	講義	
		5.国際看護活動の展開		
		6. 日本に在留する外国人の看護		
		7.異文化理解		
14	Ⅷ. 国際看護	8. 途上国の生活や文化	講義	JICA
		9. JICAの活動と体験談		
15	Ⅷ. 国際看護	10. 国際看護活動の実際	講義	デービス千春

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート					
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)		○	○		
担当教員	下野 典子 デービス千春 JICA リスクマネジャー		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	統合技術演習			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	統合実習の前段階として予定時間内での対象理解と看護援助の進め方、調整の仕方を学習する。 また、看護技術の統合としてもコミュニケーション技術やフィジカルアセスメント技術、安全・安楽であり確実な基本援助技術、調整力について対象の状況に応じて統合しながら活用していく。そして、多重課題事例を通して緊急、突発の要件下での状況判断力と対応力を養うことをねらい演習を行う。						
一般目標	1. 多重課題における優先順位の選択の考え方を理解する。 2. 多重課題における安全に対処するための方法を理解する。 3. 多重課題におけるチームでの調整の仕方を身につける。 4. 自己の看護を振り返り、今後の課題を明確にする。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）						
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 2医療安全（メディカ出版）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
多重課題における優先順位を判断しその理由を説明する。				
技術(精神運動領域)				
多重課題における安全に対処するための方法を実施する。				
態度(情意領域)				
メンバーシップ・リーダーシップを考えた主体的に行動し、チームの課題達成に向け協力する。 自己の看護を振り返り今後の課題について表現する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 多重課題における優先順位・安全面、チーム調整の考え方	1. 臨床現場の多様さと実践能力の身につけ方 1)ケアの優先順位	講義	堀 徳 原
2		2. 多重課題場面演習 1)ケア・処置の優先順位 2)複数の同業務の優先順位 3)タイムマネジメント	G演習 発表	
3		4)同時発生多重課題 5)コールへの対応・介助 6)呼び出し(検査・リハ・手術) 7)入退院・転倒 8)患者対応・家族への対応 9)アラームへの対応	G演習 発表	
4		10)医師指示への対応・処置介助 11)急変時多重課題 12)業務・ケア・治療の優先順位	G演習 発表	
5	Ⅱ. 複数患者受け持ち演習	1. 多重課題時の対応をグループごとに演習 A事例:点滴静脈注射 B事例:心臓カテーテル検査出し	演習	
6		グループ演習・リフレクション	演習	
7				
8				
9				
10				
11		2. 試験・リフレクション A事例・B事例の二人の患者の援助を30分間で実施 1) 1回目試験	技術試験	
12				
13				
14				
15	1回目の改善案を役割を変え実施	技術試験		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			50	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	40	
担当教員	堀 由美子 両國 俊樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	統合実習			単位数	2	時間数	90
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	本実習では、複数の患者を受け持ち、複数の患者に対して、援助の優先順位の判断、時間調整、および患者への配慮を学ぶ。また、病棟師長、看護主任、リーダーの役割、チームメンバーの役割、他部門との連絡・調整のシャドウイングをとおして、病棟の看護管理の実際を知り、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としての役割を学ぶ。医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力と看護技術力を養うことをねらいとし、実習の総仕上げである本実習が、学生が将来、臨床に出て働く自信につながり、自覚と責任感が持てるような実習を行う。						
一般目標	1. チーム医療を行うための看護師長・チームリーダー・チームメンバーの役割を学ぶ。 2. 複数の患者に対し、安全で個別性をふまえた看護を実践する。 3. 複数の患者への看護を実践するための状況判断の仕方、業務調整の仕方を学ぶ。 4. 医療チームの一員として看護を実践するための自己の課題と目標を明確にする。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	1日目:一人受け持ち	1. チーム医療を行うための病棟師長・チームリーダー、メンバーの役割 1)病棟師長の役割と業務 2)チームリーダー・チームメンバーの役割と業務 2. 複数の患者に対し、安全で個別性をふまえた看護の実践 1)受け持ち患者の看護展開 2)安全確保 3. 複数患者へ看護を実践するための状況判断の仕方、業務調整の仕方 1)複数患者の援助実施に向けた行動計画の立案 重症度・緊急性・時間指定をふまえた援助の順序、時間配分 患者の希望、習慣の考慮 感染の危険性・汚染への配慮 必要時間・必要人数の考慮 2)患者およびチームの状況に応じた業務調整 チームメンバー・リーダーへの報告・連絡・相談、協力依頼、他者への協力、患者家族との調整、他職種との調整 4. 医療チームの一員として看護を実践するための自己の課題と目標	臨地実習	90時間
2	2日目:一人受け持ち			
3	3日目:一人受け持ち			
4	4日目:師長同行実習			
5	5日目:メンバー同行実習			
6	6日目:メンバー同行実習			
7	7日目:リーダー同行実習 カンファレンス			
8	8日目:複数受け持ち			
9	9日目:複数受け持ち			
10	10日目:複数受け持ち			
11	11日目:複数受け持ち			
12	12日目:一人受け持ち 学びの会			
担当教員		田中 三千子	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/